

科学研究費補助金（基盤研究（C）（2））

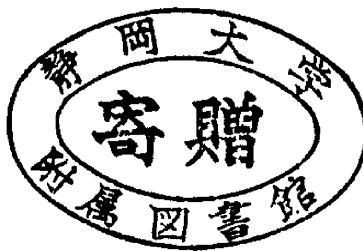
高齢者向け住宅・居住施設の計画、
運営に関する基礎的研究

— 民間有料老人ホームにおける15年間、4次にわたる入居者調査結果から —

（課題番号 07680015）

平成七年度～平成八年度

研究成果報告書



（平成九年三月）

静岡大学附属図書館



030850657 5

研究代表者 小川裕子

（静岡大学教育学部助教授）

はしがき

平成七、八年度の2年間にわたって、文部省科学研究費の交付を受け、「高齢者向け住宅・居住施設の計画、運営に関する基礎的研究——民間有料老人ホームにおける15年間、4次にわたる入居者調査結果の分析——」に関する調査・研究をすすめてきた。本報告で施設別の課題に基づいた研究結果を発表する。民間有料老人ホームにおける15年間、4次にわたる入居者調査結果から——」について調査・研究をすすめて研究組織報告では、この課題についての研究成果を公表する。

研究代表者：小川裕子（静岡大学教育学部助教授）

研究経費	年度	
平成七年	900	千円
平成八年	800	千円
平成九年	800	千円
合計	1,700	千円

研究発表

1 日本建築学会誌

小川裕子「一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者概要と入退居動向」日本建築学会計画系論文集、第492号、101-108、1997年2月

小川裕子「一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化——その1 健康状態・通院と外出行動・趣味——」日本建築学会計画系論文集、発表予定、1997年

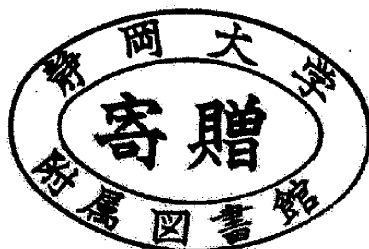
小川裕子「一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化——その2 共用施設の利用状況と子どもとの交流——」日本建築学会計画系論文集、発表予定、1997年

2 口頭発表

本研究テーマについて平成七年以降は行なっていないが、15年前から各次調査後に行なってきた研究発表（論文、口頭発表、その他）については、あとがきに示した。

3 出版物

上述の一連の研究発表と本研究の成果をもとに、数年以内に小川裕子単独で、著書をまとめる予定である。仮題「高齢者向け住宅・居住施設の計画と運営」



目 次

第一章 一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者概要と入退居動向」

1	はじめに	1
2	研究の方法	2
	2-1 入居者調査	
	2-2 入居者調査回答者世帯の入退居動向調査	
	2-3 対象有料老人ホームの概要	
3	入居者の概要	3
	3-1 入居者の基本的属性	
	3-2 入居者の概要	
4	入居理由と入居時の年齢	5
	4-1 入居理由	
	4-2 入居時の年齢	
5	退居理由と退居時年齢	5
	5-1 退居理由	
	5-2 退居時の年齢	
6	入居継続世帯の世帯内変動	6
7	結論	7
	註	8

第二章 一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化

一その1 健康状態・通院と外出行動・趣味一

1	はじめに	9
---	------	---

2	加齢と健康状態の変化	
2-1	加齢状況	10
2-2	健康状態の変化	
3	通院状況の変化	11
3-1	通院率、通院頻度の変化	
3-2	診療科目別にみた受診割合の変化	
4	外出行動の変化	12
4-1	外出頻度の変化	
4-2	外出先の変化	
5	余暇の過ごし方の変化	13
6	結論	14
註		14

第三章 一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化 —その2 共用施設の利用状況と子どもとの交流—

1	はじめに	15
2	共用施設の概要	15
3	「食堂」の利用状況の変化	15
4	「大浴室」の利用状況の変化	17
5	その他の共用施設の利用状況の変化	18
6	子ども（家族）との交流状況の変化	20
7	結論	20

第四章 一民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者の生活の変化
一専用住戸内における生活の場の変化一

1	はじめに	21
2	専用住戸の概要	21
3	住戸タイプ別にみた生活の場の変化	22
4	生活の場の変化についての事例の検討	22
5	結論	22
	註	23

資料編

1	個人の加齢と健康状態、通院、外出、趣味活動の変化	24
2	世帯の食事、入浴、共同施設利用の変化	29
3	調査票（4次調査）	35

第一章 一民間有料老人ホームにおける開設後 15年間の入居者概要と入退居動向

A STUDY ON THE TENANTS WHO HAD MOVED INTO AND OUT A HOME FOR THE AGED,
AGAINST WHOM ALL EXPENSES ARE CHARGED, IN 15 YEARS FROM WHEN IT WAS OPENED

小川 裕子*
Hiroko OGAWA

Mainly by the four times questionnaires for the tenants of a home for the aged, against whom all the expenses are charged, in 15.5 years from when it was opened, The major findings on a reshuffle of the 293 tenants are as follows:

- 1) The majority of the 293 tenants moved into it within 6 months from when it was opened, and their average age is 69.6. But the later the tenants moved into it, the higher their average age was.
- 2) The 89 tenants moved out in 15.5 years from when it was opened, by death or moving.

Keywords: Housing for the aged, Home for the aged, Reshuffle of the tenants, Tenants' average age when they moved into, Average age when the tenants moved out
高齢者対応型住宅、有料老人ホーム、入退居動向、入居時年齢、退居時年齢

1 はじめに

高齢化の進展にともない、わが国でも都市部や過疎地域を中心として高齢の単身または夫婦のみの世帯が増加の一途を辿っていることは周知の通りである。これらの世帯の住宅事情は持家率が低いと同時に民間借家率が高く、さらに、「民間借家に居住している高齢者単身世帯の約7割は最低居住水準未満という非常に由々しき現状」¹⁾にあり、対策が急がれている。他方で、現在厚生省老人保健福祉審議会で検討されている「介護の社会化」²⁾が、その財源についてはともかくも実現するとするならば、これからの高齢期に求められる住宅には、介護を中心とした将来の不安に 대응するための「持家」に象徴される資産価値の側面より、高齢期の生活にとって適切なハード、ソフトの条件を備えているかどうかにより重要な要件となることはまちがいない。このことは、すでに「新ゴールドプランの具体的施策」³⁾において、高齢者を含む世帯のための住宅施策として、ケアハウスの10万人分の整備をはじめとして、高齢者対応型住宅の新築・増改築に対する政策融資等の充実や集合住宅を含む高齢者対応型住宅を供給する民間業者に対する新たな政策融資等の実施、そして、生活支援機能の付加された高齢者対応型住宅の整備（シルバーハウジング・プロジェクト、シニア住宅）等が示されていることにも反映されている。

さて、本研究で取り上げる有料老人ホームは、老人福祉法において「常時10人以上の老人を入所させ、食事の提供その他日常生活上必要な便宜を供与することを目的とする施設であって、老人福祉施設でないもの」⁴⁾と規定されている。また、最近の報告書⁵⁾によれば、有料老人ホームの提供するサービスとしては、①加齢および疾病に伴う心身機能の低下に配慮した質の高い住宅の提供、②日常生活上必要な便宜の提供、③介護の提供の3つがあげられている。このことは、有料老人ホームが前述した生活支援機能の付加された高齢者対応型住宅に該当するものであることを示している。

有料老人ホームは、戦後、生活保護法による養老施設があるばかりの時代、その対象外であって、行くあてのない経済的には豊かであっても身寄りのない高齢単身者のために、大都市とその周辺に生まれた施設として始まった。その後、老人福祉法の制定にともなって各種の国庫補助による老人ホームが整備されていく中で、まず、厚生年金保険積立金還元融資及び国民年金特別融資によって公営の有料老人ホームの設置が急速にすすむ。本格的に民間による有料老人ホームが開始されるようになるのはその後のことであり、1974年の厚生省社会局長通知「有料老人ホームの設置運営指導指針」、1975年の年金福祉事業団、日本開発銀行による有料老人ホーム融資制度の開始以降のことである。さらに、1982年に業界内で自主規制

* 静岡大学教育学部 助教授・家修

Assoc. Prof., Dept. of Education, Shizuoka Univ., N. Home Eco.

をはかるための(社団法人)全国有料老人ホーム協会が設立され、1990年代に入って前述した「設置運営指導指針」は全面改正された。1994年6月1日現在、全国に計265施設(うち公営は48)がある⁵⁾。

本研究は、前述したような生活支援機能の付加された高齢者対応型住宅の供給に関わって、15~20年先行して設置・運営されてきた有料老人ホームの実績に学ぶとするものである。本稿では、一つの民間による有料老人ホームにおいて開設後15年間に4回の入居者調査を実施した結果に基づいて、入居者概要と入退居動向を明らかにすることを目的としている。それによって、有料老人ホームに限らず、生活支援機能等の付加された高齢者対応型住宅一般の計画にあたって重要な基礎的知見が得られると考えた。

2 研究の方法

2-1 入居者調査

本研究で中心となる研究方法は、1979年4月に兵庫県内に開設された一つの民間による有料老人ホームにおいて、表1に示すように、半年後の同年10月、4年半後の1983年9月、11年半後の1990年9月、そして15年半後の1994年11月に実施した4回の入居者調査である。4回の調査はいずれの場合も、調査期間中(4~5日)に在籍かつ入居者が所在している全住戸を、調査員が訪問して調査依頼を行い後日回収にまわるといふ、調査票留置法により実施した。ただし、回答者が高齢のため記入が難しいと判断された場合には、調査員による聞き取り調査も併用している。調査票は各世帯に1通配布し、夫婦等二人世帯の場合には「夫、または年長者」に回答をお願いした。また、1~4次にわたるいずれの調査においても、特定の世帯を追っていく追跡調査ではなく、各時点に置ける当該有料老人ホーム入居者の全体的な生活像をとらえようという問題意識で一貫して調査を実施した。

2-2 入居者調査回答者世帯の入退居動向調査

前項で述べた1~4次の入居者調査の回答者世帯について、その入退居の動向を明らかにするために、次のような調査を行なった。

まず、個々の回答者世帯について、各次調査間の重複の実態から大まかな入退居動向を明らかにできると考え、以下の二点に注目した。第一は、調査結果の集計にあたって個々の回答者世帯につけた固有の番号である。この番号として、あらかじめ対象有料老人ホームの全住戸に対して設定しておいた住戸番号を、1~4次の調査の回答者世帯に対して共通して用いていた。第二は、各次調査票において、共通して尋ねていた世帯全員の性別・続柄と生年月日のデータである。これらのデータに注目することによって、各次調査の回答者世帯の各調査時点をポイントとした入退居動向(入居パターン)をかなりの程度まで明らかにした。さらに、以上の調査によっても不明な点については、ホームの設置・運営者に聞き取り調査を行なうことによって補充した。

次に、前回までの調査の回答者世帯であって、その後の調査時までに退居が確かめられた世帯については、同様にホームの設置・運営者に対して、退居理由(死亡か転出か)について聞き取り調査を行なった。

以上の内、回答者世帯の各次調査間の重複の実態を明らかにする調査については、主として4次調査の前後に行なった。また、設置・運営者に対する聞き取り調査は、4次調査時点にあわせて実施した。

以上の結果、対象ホームにおける15年間の入退居に関して、計293世帯のデータを得ることができた。従って、本稿では、以上の293世帯に関する基本属性と入退居にかかわる実態について明らかにする。

なお、以上のような方法によって明らかにする入退居動向は非常に限界のあるものになることが予想される。しかし、民間による有料老人ホームの入退居動向は、まさに企業秘密に該当するため、本研究で明らかにできる範囲でも貴重な基礎資料となることは間違いないと思われる。さらに、本稿で明らかにする293世帯の概要は、次報以降で明らかにしたいと考えている有料老人ホームにおける入居者の生活の変化に関する実態の前提としても重要である。

2-3 調査対象有料老人ホームの概要

調査対象とした有料老人ホームは、阪神間の高級住宅地のはずれに所在しており、前述した(社)全国有料老人ホーム協会に加盟している。施設・設備やサービスの概要について表2に示した。専用住戸は250戸であるが、開設当初より着実に入居者を確保しており、15年以上経過した今日に至っても空室はほとんど無い状態が続いている。1979年の開設以来、4次調査を実施した1994年までは増設等の大規模な工事は一切実施されていないが、1996年4月以降順次建て替え工事をすすめることが計画されている⁶⁾。

また、対象としたホームは、有料老人ホームの類型⁷⁾では「終身利用(同一施設内介護)型」に該当し、入居一時金を支払うことによって利用権を取得するタイプである。入居一時金の額は、1995年4月現在において、専用住戸の規模に応じて一人入居の場合には

表1 調査概要()内は、うち夫婦等二人世帯数を示す(各調査時点)

	1次調査	2次調査	3次調査	4次調査
調査時期	1979年10月	1983年9月	1990年9月	1994年11月
実入居世帯数	195	245	249	244
回答者世帯数	114(47)	146(54)	149(49)	151(27)

* 1次調査は、奈良女子大学家政学部住居学科湯川利和研究室が行ったものであり、筆者は同研究室の大学院生として参加した。2次調査は、筆者の研究室と湯川利和研究室と合同で実施した。

表2 調査対象有料老人ホームの概要

設立主体	社会福祉法人S
開設時期	1979年4月
敷地面積	61,298.8㎡
建築構造	鉄筋コンクリート造4階建4棟、3階建1棟
建築延べ面積	17,618.4㎡
共用施設について	共用部分総面積6,607.1㎡ 静養室、大食堂、喫茶室、集会室、大浴場、和室広間 サニタールーム、ゲストルーム、図書室、相談室、ビリヤード室、理・美容室、等
併設施設	診療所(19床)、特別養護老人ホーム
専用居室について	32.1㎡~64.0㎡、250戸 標準設備: ナースコール、生活リズム監視装置等の安全装置、電磁コンロ付きキッチンユニット、給湯設備 暖房設備、浴室、洋式トイレ、等
入居資格	原則として満60歳以上の方(夫婦の場合は一方で可) また、入居時には身の回りのことが自分でできる方
健康管理サービス	園内診療所にて、日々の健康管理と、月1回の簡易健康診査、年1回の定期健康診査(人間ドック)を実施
介護サービス	「介護基準」に基づき、居室、静養室で状態に応じた介護サービスを行なう。(おむつ等の実費、静養室料は自己負担)
その他のサービス	役場・郵便局への手続代行、銀行出張サービスの他 各種生活支援サービス(有料)有り

(社)全国有料老人ホーム協会発行『拜・有料老人ホーム入居ガイドNo.15』1996年4月発行より

2,670～5,360万円、二人入居の場合には3,770～6,460万円である。なお、この額は1979年の開設当初は、約1/3（一人入居の場合には980～2,100万円、二人入居の場合には1,280～2,400万円）であった。また、入居一時金の返還期間は180カ月（15年）間である。

3 入居者の概要

3-1 入居者の基本的属性

表3には、調査回答世帯の基本属性を示している。サンプル数が264という項目は、1次調査の調査票の不備のため1次調査のみに回答した世帯(29)の結果が得られていないものである。

まず、入居直前の世帯構成は、単身世帯と夫婦世帯がいずれも4割強ずつを占めており、子どもと同居していた世帯は、未婚・既婚の子どもをあわせても1割に満たないなど非常に少ないことがわかった。これに対して、ホーム入居時の世帯構成は、夫婦世帯が4割弱であ

り、6割は単身世帯である。また、単身世帯では、その9割近くを女性が占めていることが特徴である。

子どもの有無については、入居直前子どもと同居していた世帯は1割に満たなかったが、子どもの有る世帯はそれほど少ないわけではなく、全体の約半数を占める。しかし、子どもが有る場合でも2/3は「一人」か「二人」とその人数が少ないことがわかった。

入居直前の居住地は、地元兵庫県が4割と最も高く、大阪府が3割と続く。そして、近畿地方出身世帯をまとめると全体の8割に達する。

前住宅の所有形態は、持家が8割弱を占めるなど高い。また、前住宅は、持家を含めて集合住宅に居住していた世帯が25%を占めることも特徴である。

3-2 入退居の概要

調査回答計293世帯の入退居の概要（入居パターン）について図示したものが図1である。なお、ここで述べる入退居概要は、あくまでも世帯単位の変動であり、世帯内の変動（夫婦世帯として入居したが片方が死亡する等）については最後に6で述べる。

まず、293世帯の入居時期に注目すると、開設後1次調査までに入居した世帯数は161(54.9%)、1次調査以降2次調査までに入居した世帯が48(16.4%)、2次調査以降3次調査までに入居した世帯が66(22.5%)、3次調査以降4次調査までに入居した世帯が18(6.1%)である。開設後15年半という時点までの入居者の入居時期は、開設

表3 調査回答世帯の基本属性

入居時の世帯構成 (N=293)	男性単身世帯	22 (7.5%)
	女性単身世帯	153 (52.2%)
	夫婦世帯	109 (37.2%)
	その他二人世帯	9 (3.1%)
入居直前の世帯構成 (N=264)	単身世帯	114 (43.2%)
	夫婦世帯	109 (41.3%)
	未婚子と同居	3 (1.1%)
	既婚子家族と同居	18 (6.8%)
	その他	13 (4.9%)
子どもの有無と数 (N=293)	子どもはいない	139 (47.4%)
	一人	49 (16.7%)
	二人	39 (13.3%)
	三人	22 (7.5%)
	四人以上	22 (7.5%)
	不明	22 (7.5%)
入居直前の居住地 (N=293)	兵庫県	115 (39.2%)
	大阪府	90 (30.7%)
	その他の近畿地方	31 (10.6%)
	関東地方	24 (8.2%)
	中部地方	14 (4.8%)
	中国地方	6 (2.0%)
	四国地方	1 (0.3%)
	九州地方	1 (0.3%)
	北海道	1 (0.3%)
	不明	10 (3.4%)
	前住宅の所有形態 (N=264)	一戸建て持ち家
分譲マンション		36 (13.6%)
一戸建て借家		9 (3.4%)
賃貸マンション		18 (6.8%)
給付住宅		8 (3.0%)
公営・公団住宅		8 (3.0%)
その他		8 (3.0%)
不明		5 (1.9%)

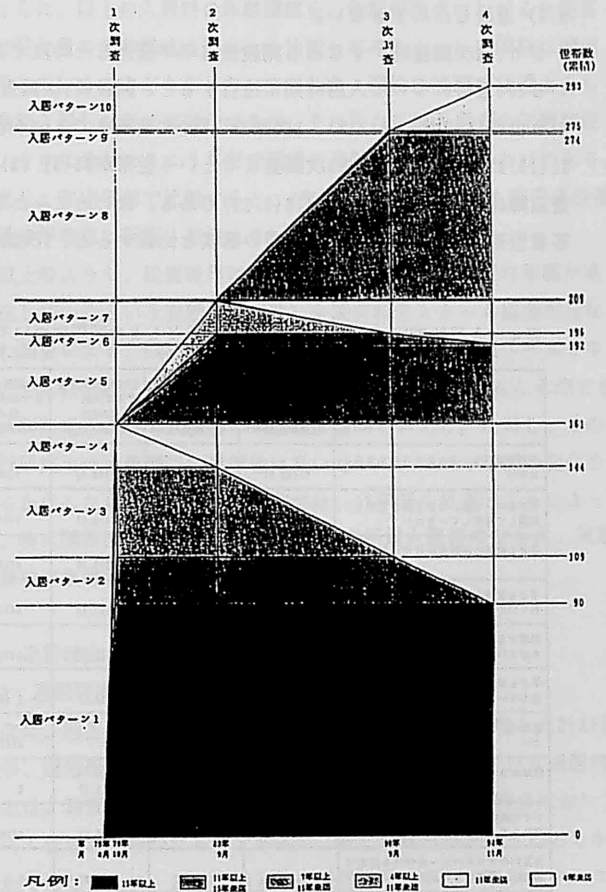


図1 調査回答全世帯の入退居概要

されてから半年間の間である世帯が過半数を占めている。その後は2次調査（4年後）までは年平均12世帯の増、3次調査（5～11年後）までは同じく年平均9.4世帯の増、その後4次調査（12～15年後）までは年平均4.5世帯と、入居世帯数は開設直後に集中し、その後は少なくとも15年後までは急減している。

これに対し、退居は、まず全体でみると、1次調査以降2次調査までの間に17世帯（年平均4.3）、2次調査以降3次調査までの間に48世帯（年平均6.9）、3次調査以降4次調査までの間に24世帯（年平均6.0）である。特に2次調査以降3次調査までの間の退居数が多く、その後4次調査までの間はやや少なくなっている。入居の場合と異なり、開設後15年を経過した時点までみれば、退居が集中した時期は認められない。

次に、退居数を入居時期のグループ別にみると、開設後1次調査までに入居した世帯(161)の場合、2次調査までの間に17世帯（年平均4.3）、その後3次調査までの間に35世帯（年平均5.0）、さらに4次調査までの間に19世帯（年平均4.8）と、全期間にわたって年平均4～5世帯が退居するが、全体と同様に2次調査以降3次調査までの間の退居数がやや多い傾向が認められる。また、1次調査以降2次調査までの間に入居した世帯(48)の場合には、3次調査までの間に13世帯（年平均1.9）が退居しており、4次調査までの間の4世帯（年平均1.0）より著しく多くなっている。そして、2次調査以降3次調査までの間に入居した世帯(66)では、4次調査までの間にわずか1（年平均0.3）退居したにすぎない。

さて、4次調査時、すなわち開設後15年半経過した時点で在籍している204世帯について入居時期に注目すると、開設後1次調査までという世帯は90世帯(44.1%)、1次調査以降2次調査までという世帯が31(15.2%)、2次調査以降3次調査までという世帯が65(31.9%)、3次調査以降4次調査までの世帯が18(8.8%)である。はじめにみた本調査回答者世帯、計293世帯の入居時期の構成と比較すると、1次調査まで

表4 入居時期別にみた入居理由 (1)子どもとの同居についての考え ()内は%

	開設以降1次調査までに入居 (N=110) (2次調査結果)	1次以降2次調査までに入居 (N=38) (2次調査結果)	2次以降3次調査までに入居 (N=52) (3次調査結果)	3次以降4次調査までに入居 (N=10) (4次調査結果)
子どもはいないのであまり考えたことはない	33(30.0)	10(26.3)	20(38.5)	9(90.0)
子どもはいても、できる限り自立し、別居して後援していきたい	39(35.5)	31(81.6)	18(34.6)	6(60.0)
子ども家族に世帯をかけたくない	33(30.0)	30(78.9)	27(51.9)	5(50.0)
子ども家族と同居すれば何かとわずらかしいので、別居がよい	22(20.0)	7(18.4)	12(23.1)	6(60.0)
別居でも、近くで行き来しやすいところがよい	19(17.3)	5(13.2)	6(11.5)	6(60.0)
子どもはいても、仕事の都合で近くに住んでいるので、同居は考えられない	8(7.3)	2(5.3)	2(3.8)	1(10.0)
老後は、子や孫に囲まれて暮らすのがよい	1(0.9)	2(5.3)	0	4(40.0)
施設ありで同居は考えられない	5(4.5)	1(2.6)	1(1.9)	0
いざれ病気でなれば、子ども家族に世帯をみてもらいたい	4(3.6)	0	2(3.8)	3(30.0)
お互いのプライバシーを守れる住宅であれば、同居してもよい	3(2.7)	1(2.6)	1(1.9)	0
配偶者が亡くなれば、子どもと同居したい	2(1.8)	0	1(1.9)	0
今でも、できれば子どもと同居したいと思う	4(3.6)	1(2.6)	0	0

*入居時期別の4グループ間で有意差検定を行なった結果、p<0.001で有意差あり

表5 入居時期別にみた子どもの有無と、有る場合の平均数 ()内は%

	開設以降1次調査までに入居 (N=110) (2次調査結果)	1次以降2次調査までに入居 (N=38) (2次調査結果)	2次以降3次調査までに入居 (N=52) (3次調査結果)	3次以降4次調査までに入居 (N=10) (4次調査結果)
子どものない世帯数と割合(%)	54(49.1)	16(42.1)	19(36.5)	0(0.0)
子どもがいる場合の平均人数(人)	2.93	2.44	2.35	2.00

表6 入居時期別にみた入居理由 (2)当有料老人ホームを選んだ理由 ()内は%

	開設以降1次調査までに入居 (N=110) (2次調査結果)	1次以降2次調査までに入居 (N=38) (2次調査結果)	2次以降3次調査までに入居 (N=52) (3次調査結果)
キリスト教の施設だから	21(19.1)	10(26.3)	12(23.1)
病院や特別養護老人ホームを持っている団体の経営だから	43(39.1)	10(26.3)	15(28.8)
まわりの自然環境がよい	76(69.1)	15(41.7)	38(73.1)
交通の便がよい	64(58.2)	17(47.2)	26(50.0)
家族が訪ねやすい場所にあるから	28(25.5)	10(26.3)	12(23.1)
生活に必要な園外の施設まで、比較的便がよいから	33(30.0)	11(30.0)	19(36.5)
立地する地域になじみがあるから	21(19.1)	7(19.4)	13(25.0)
文化的な環境だから	7(6.4)	2(5.3)	8(15.4)
看護婦やヘルパーがいるから	52(47.3)	14(36.8)	28(53.8)
併設の診療所があるから	67(60.9)	16(42.1)	35(67.3)
いざという時に対応してくれると思ったから	76(69.1)	19(50.0)	34(65.4)
食事がおいしいから	65(59.1)	16(42.1)	31(59.6)
余暇施設があるから	10(9.1)	1(2.6)	5(9.6)
前住宅に比べると、当ホームの居室のほうが住みやすいから	5(4.5)	1(2.6)	1(1.9)
他に適当な有料老人ホームがなかったから	17(15.5)	2(5.3)	5(9.6)
その他	13(11.8)	7(19.4)	7(13.5)

*入居時期別の3グループ間で有意差検定を行なった結果、有意差は認められなかった

表7 入居時に抱いていた有料老人ホームにおける生活像 ()内は%

	開設以降1次調査までに入居 (N=110) (2次調査結果)	1次以降2次調査までに入居 (N=38) (2次調査結果)
つきあいを無理強いはせず、マイペースで生活したい	58(52.7)	24(63.2)
やっと仕事や子育てから解放されたのだから、今後は、好きなこと(趣味、旅行等)に打ち込みたい	34(30.9)	8(21.1)
やっと仕事や子育てから解放されたのだから、今後は、のんびりと気楽な生活を送りたい	29(26.4)	6(15.8)
同世代の人が多く集まっており、話相手や仲間ができるので、皆で楽しくすごしたい	28(25.5)	2(5.3)
持ち家を処分したお金で、老後を楽しく暮らしたい	19(17.3)	8(21.1)
老後は、若い人達と雑れて、老人だけで静かに暮らしたい	14(12.7)	4(10.5)

*入居時期別の2グループ間で有意差検定を行なった結果、p<0.01で有意差あり

に入居した世帯の減少が著しく、代わりに、2次調査以降に入居した世帯の割合の増加が顕著である。

4 入居理由と入居時の年齢

4-1 入居理由

ここでは、有料老人ホームへの入居理由に関して、高齢期に子どもとどの様に住みたいと考えるか、当該有料老人ホームを選んだ理由、そして、入居時に描いていた有料老人ホームにおける生活像という三点について尋ねた。これらの結果については、入居時期別に比較し、有意差検定を行なうことによって考察を深めたいと考えた。

まず、高齢期に子どもとどの様に住むかという問題については、表4に示すように、入居時期にかかわらず「子どもはいないのであまり考えたことはない」「子どもはいても、できる限り自立し、別居して生活していきたい」を選んだ割合が高い。ただし、後者を選んだ割合は、入居時期が後になるにつれて高くなる傾向が認められた。また、表5には、参考のために入居時期別にみたり子どもの有無と人数を示したが、入居時期が後になるほど、子どもの無い世帯は減少し、子どもが有る場合の人数も増加する傾向が認められた。このことは、表4に示すように、2次調査以降3次調査までの間に入居した世帯における「子どもはいないのであまり考えたことはない」を選んだ割合がやや低いことや、「子ども家族に世話をかけたくない」を選んだ割合が高いことに反映していると考えられる。また、3次調査以降4次調査までの間に入居した世帯の場合に、サンプル数が18と少ないものの、「別居でも、近くて行き来しやすいところがよい」や「老後は、子や孫に囲まれて暮らすのがよい」についての支持が高いことにも、入居時期が後になるほど子どものある世帯が増加していることが反映していると考えられる。

以上のように、子どもとどの住み方についての考え方は、基本的には開設後年数を経るごとに、新規入居者の子どもからの自立志向は強まるものの、同時に子どもの有る割合が増え、「別居でも行き来しやすいところがよい」等を選ぶ割合も上昇する等変化のあることがわかった。

これに対して、当該有料老人ホームを選んだ理由に関しては（表6）、入居時期による有意差は認められず、主として「併設の診療所があるから」「いざという時に対応してくれると思ったから」といった医療や緊急時の対応と立地に関すること（「まわりの自然環境がよい」「交通の便がよい」）が重要であることがわかった。その他、「食事付きだから」「看護婦やヘルパーがいるから」、さらに経営主体の安定性や宗教をあげるものも少なくない。

入居前に描いていた有料老人ホームでの生活像については、表7に示すように、入居時期にかかわらず「つきあいを無理強いされず、マイペースで生活したい」についての支持が最も高い。しかしながら、開設直後に入居した世帯の方が後になって入居した世帯より、有料老人ホームにおける積極的な生活の側面（「同世代の人が多く集まっており、話相手や仲間ができるので、皆で楽しくすごしたい」「やっと仕事や子育てから解放されたのだから、今後は、好きな事に打ち込みたい」）を描いていた割合が高く、有意差が認められた。

しかしながら、入居理由、中でも子どもとどの住み方やホームでの生活像に関して入居時期による差異が認められたことは、一つの有料老人ホームの開設後の時間の経過によるものなのか、あるいは、

有料老人ホームという老後の居住環境がわが国において多少とも普及した結果によるものなのか、本調査結果だけで判断することはできない。

4-2 入居時の年齢

次に、入居に関わって、入居時の年齢に注目する。ただし、今回の調査では、入居時の年齢それ自体ではなく、各次調査の直前の期間に入居し、かつ回答した世帯全員の、調査時における年齢を「入居時の年齢」として捉えていることを、まず断っておかねばならない。従って、図2には、1~4次にわたる各調査時において、その直前の調査以降に入居し、かつその時の調査に回答した世帯全員（夫婦等二人入居の場合は同居者についても生年月日を回答してもらった）の年齢構成を示した。この結果をみると、開設後、時間を経るごとに新規入居者の年齢構成が高齢化していることが明かである。それでも、75歳以上の後期高齢者とそれ未満の前期高齢者と分けると、2次調査時点までの新規入居者は、ほぼ3:1であった。しかし、2次調査以降大幅に高齢化し、最も新しい3次調査以降4次調査までの入居世帯の年齢構成は、前述した後期高齢者と前期高齢者の比率がほとんど逆転するほどの結果である。

また、入居時年齢の変化を平均年齢でみると、1次調査までに入居した場合には69.6歳、2次調査までに入居した場合には70.6歳、3次調査までに入居した場合には75.3歳、4次調査までに入居した場合には76.4歳と、やはり2次調査以降に入居した者の高齢化が著しい。

さらに、以上の入居時の年齢構成を、各調査時点における全回答者世帯全員の年齢構成（図3）と比較してみると、ほぼ同様な傾向を示していることがわかった。すなわち、開設後時間の経過とともに当初入居した者は高齢化するが、その後の新規入居者の年齢構成も、それに合わせるような形で同様に高齢化するというわけである。ただし、平均年齢で比較すると、2次調査以降、いずれも回答者世帯全員の平均値は新規入居者より1~2歳高い。

以上のような、設置後年数を経るごとに入居者の入居時年齢が高齢化していくという実態は、（社）全国有料老人ホーム協会が行なった調査による、開設後5年以上を経過した当協会会員ホームを中心とする43施設、計6,326名の入居者の傾向からも認めることができ⁹⁾、有料老人ホーム入居者の一般的な傾向といえる。ただし、この先行研究では大量調査で信頼性は高いものの、ほぼ5年間の変化を明らかにしたにすぎない。本研究では、15年間を見通すことによって、特に開設後4年半以上を経過した後の新規入居者のなかに、後期高齢者が急増することを明らかにすることができた。

5 退居理由と退居時年齢

5-1 退居理由

次に、回答者世帯293世帯中、開設後15年半の間に退居した計89世帯の、退居理由について明らかにする。ただし、ここでいう退居理由とは、調査方法のところでも述べたように、4次調査時点においてホーム管理者に尋ねたものであって、死亡か転出かということしか明かではない上に、2~3次調査間の退居世帯を中心に不明のケースも少なくない。ここで、転出とは、自宅へ帰ったり、子どもの家や他の有料老人ホーム等へ移ったりというものである。夫婦等二人世帯の死亡による退居とは、それ以前に一方が死亡しており、さらに残っていた一人も死亡した時点においてカウントしている。また、

夫婦世帯で一方が死亡後、直ちに他方が転出したケースが1例あったが、この場合の退居理由は転出として捉えている。

表8には、入居時期と退居時期別に、退居理由ごとの退居世帯数を示した。

まず、調査期間中の退居世帯全体をみると、開設後4年目までの退居世帯数はその後の期間と比較するとやや少なく、その理由も転出が多い。その後は、転出による退居が減少すると同時に、死亡による退居が増加し、全体として退居世帯数は増加する。退居世帯全体の退居理由は、不明を除くと転出28(40.0%)、死亡42(60.0%)という分布である。

次に、入居時期別に退居理由に注目する。開設後1次調査までに入居済みの161世帯では、15年後の4次調査までに退居したのは71世帯、44.1%を占める。この間、退居はある期間に偏って発生したわけではないが、退居理由は退居までの入居期間によって大きく異なっている。すなわち、1~2次調査間に退居した世帯では17中12世帯が転出による退居であったのが、その後死亡による退居が増加し、3~4次調査間では19中17世帯までが死亡によるものである。

これに対して、1~2次調査間に入居した48世帯では、4次調査までに17世帯、35.4%が退居しているが、この間の退居理由は退居時期によって大きな差異は認められず、死亡と転出がほぼ半々を占めるという結果である。さらに、2~3次調査間に入居した66世帯では、4次調査までには死亡による退居がわずか1世帯(1.5%)という結果である。

以上のように、退居理由は、入居の時期や退居までの入居期間によって傾向が異なることが明らかになった。これは、先にみた入居時年齢構成が入居時期によって異なっていたことと関わっていると思われる。

5-2 退居時の年齢

退居時の年齢についても、入居時のそれと同様にそれ自体ではなく、その次の調査時点までに退居してしまった回答者世帯全員の年齢のことである。その構成について、図4には転出か死亡かという退居理由別に示した。その結果、死亡による退居の場合には直前の調査に回答した世帯が少なくサンプル数が小さいが、まず、転出か死亡かという退居理由の違いによって年齢構成が著しく異なることがわかった。転出の場合には70歳未満が過半数を占めるのに対して、死亡の場合には75歳以上が8割近くを占めている。平均年齢をみると、転出の場合は69.5歳、死亡の場合は78.5歳であり、その間には9歳の差がある。

転出の場合の69.5歳という平均年齢は、1次調査までに入居した世帯の入居時の平均年齢(69.6歳、図2参照)とほぼ同様であった。この年齢は、有料老人ホームという新しい環境へ出入りできる平均的な値と言えるのかもしれない。また、死亡の場合の78.5歳という平均年齢に対して、先に図3でみたように4次調査の全回答者の平均年齢(78.1歳)が近似していることから、ここ数年の内に入居者の多くが死亡退居する可能性が予測される。

6 入居継続世帯の世帯内変動

さて、本調査回答計293世帯のうち、5でみた89世帯を除く204世帯は4次調査時に継続入居していた。しかし、世帯として継続入居していても、夫婦等の二人入居世帯の場合には片方が亡くなっている

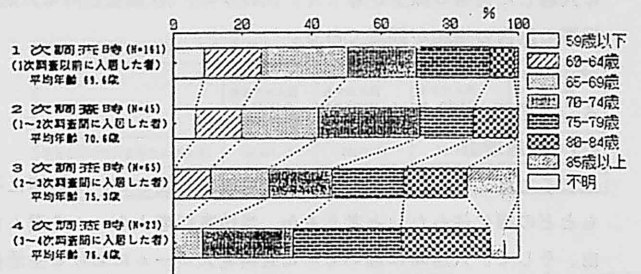


図2 入居時期別にみた入居直後の調査時点における回答者世帯全員の年齢構成

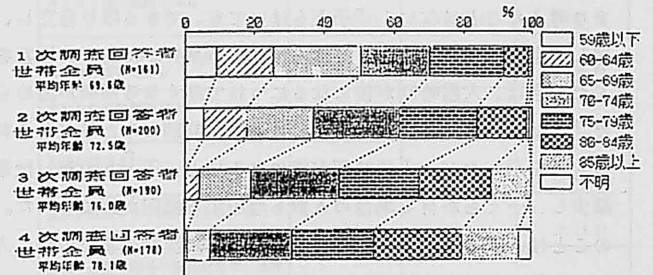


図3 各調査時点における回答者世帯全員の年齢構成の変化

表8 入居時期、退居時期別にみた退居理由と退居世帯数

()内は、うち夫婦等二人世帯数(入居時点)

入居時期	退居時期	1次調査以後 2次調査までの 退居世帯	2次調査以後 3次調査までの 退居世帯	3次調査以後 4次調査までの 退居世帯	合計
開設後1次調査までに 入居済みの世帯 計161(69)世帯	死亡	5(0)	13(5)	17(4)	35(9)
	転出	12(6)	7(3)	1(1)	20(10)
	不明	0(0)	15(6)	1(0)	16(6)
	計	17(6)	35(14)	19(5)	71(25)
1次調査後2次調査ま でに入居済みの世帯 計48(17)世帯	死亡	4(1)	2(1)	6(2)	6(2)
	転出	5(2)	2(2)	8(4)	8(4)
	不明	3(0)	0(0)	3(0)	3(0)
計	13(3)	4(3)	17(6)	17(6)	
2次調査後3次調査ま でに入居済みの世帯 計66(27)世帯	死亡	1(0)	0(0)	1(0)	1(0)
	転出	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
	不明	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)
計	1(0)	0(0)	1(0)	1(0)	
合計 計293(113)世帯	死亡	5(0)	17(6)	20(5)	42(11)
	転出	12(6)	13(5)	3(3)	28(14)
	不明	0(0)	18(6)	1(0)	19(6)
	計	17(6)	48(17)	24(8)	89(31)

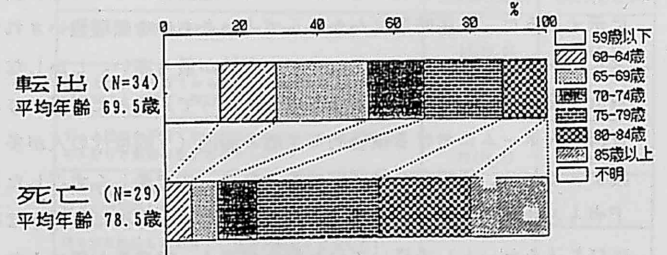


図4 退居理由別にみた退居直前調査時における回答者世帯全員の年齢構成

可能性がある。この結果について、入居時期別に示したものが図5である。

夫婦等二人入居世帯の4次調査時点までに起こった世帯内変動（片方の死亡）は、1次調査までに入居した場合には44中24世帯（54.5%）、1次調査以降2次調査までに入居した場合には11中6世帯（54.5%）、2次調査以降3次調査までに入居した場合には27中8世帯（29.6%）で生じていることがわかった。やはり、全体としては、入居後の期間が長い程変動の割合が高くなる傾向が認められる。また、その内容を見ると、夫婦では36中33（91.7%）が夫の死亡であり、結果として女性の単身世帯の増加につながっている。

7 結論

生活支援機能の付加された高齢者対応型住宅の先行事例といえる一つの民間有料老人ホームにおいて、開設後半年、4年半、11年半、15年半の計4時点において入居者調査を実施することによって得られた計293世帯に関する基本的属性と入退居動向について検討した結果、以下のような知見を得た。

(1) 293世帯の入居直前の世帯構成は、単身世帯と夫婦世帯がいずれも4割強を占め、子どもと同居していた世帯は1割にも満たない。ホーム入居時の世帯構成は、夫婦世帯が4割弱、単身世帯が6割であり、単身世帯のほぼ9割は女性である。入居直前の居住地は、地元兵庫県が4割、計8割は近畿地方で占められている。

(2) 293世帯の入居時期に注目すると、過半数が開設後半年以内と開設直後に集中している。そして、この時期に入居した人の入居時の平均年齢は69.6歳と若い。しかし、293世帯のうち開設後15年半経過した時点で継続入居している世帯は204世帯であり、このうち、開設後半年以内に入居した世帯の占める割合は半数以下である。また、これらの世帯は継続入居であっても、夫婦等二人世帯では過半数で主として夫が死亡しており、その分女性の単身世帯が増加している。

(3) 入居者の約半数には子どもがあるが、自立意識は強い。開設直後の入居者の場合には、有料老人ホームでの生活を「仕事や子育てから解放」されたと積極的に捉えていた者が多いが、その後年数を経るにつれて、子どもの有る入居者が増えるとともに、「別居でも近くに住みたい」という人も増え、また、有料老人ホームでの生活についても「マイペース」を重視する傾向が一層強まる。

他方、対象としたホームを選んだ理由としては、入居時期にかかわらず、医療や緊急時の対応と立地条件（自然環境と交通の便）が重視されている。

(4) (3)の前半で述べたような入居者の意識や実態の変化は、有料老人ホームという居住形態が開設後の時間の経過とともに少しずつ一般的な高齢者にも広がりつつあることによると同時に、入居者の入居時年齢が開設当初と比べると次第に高齢化することによると考えられる。入居時年齢の高齢化は、各次調査時点の回答者世帯全員の年齢構成の変化とほぼ同様な傾向であった。

(5) 開設後15年半という期間内において、298世帯中89世帯が退居している。この間の退居は、特に集中した時期は認められなかったが、開設後の年数の経過とともに徐々に増加傾向にある。退居理由は全体として、おおよそ転出4割、死亡6割という分布である。しかしながら、退居理由は、その世帯が開設後いつの時点で入居したか、そして退居までの期間の長短と強く関わっている。入居時期が開設直

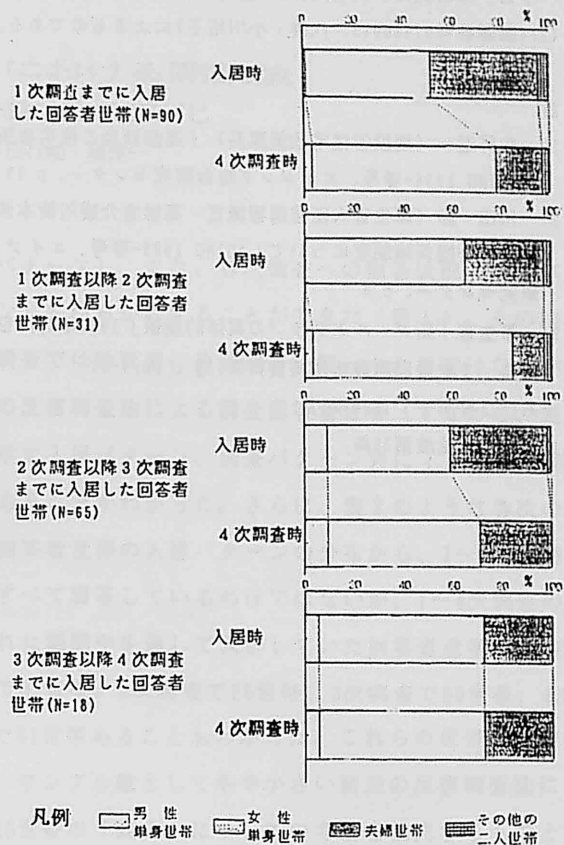


図5 入居時期別にみた4次調査時入居継続世帯の世帯内変動

後であったグループでは、入居期間が4年以下と短い場合には転出が多く、11年以上に及ぶ場合には死亡がほとんどである。また、入居が開設後4年半以降の世帯では、転出による退居は皆無であった。

退居時の年齢は退居理由によって著しく異なっており、平均年齢でみると、転出の場合には69.5歳、死亡の場合には78.5歳である。以上の死亡の場合の平均年齢を考慮すると、4次調査時点の全回答者の平均年齢78.1歳から予測されることは、4次調査後、ほんの数年の間に多くの入居者世帯が死亡退居することである。

(6) (5)で述べた退居までの期間についての実態から、対象としたホームで定めている入居一時金の返還期間の15年という期間は、ほぼ妥当なものであるといえよう。しかし、1996年4月（開設後17年目）以降実施が計画されている建て替え工事については、ちょうど入居者の大量な入れ替え時期に当たる。この時期に建て替え工事を実施することは、経営・管理的な立場からは最も適切とも考えられようが、継続入居者にとっては、ようやく慣れ親しめるようになった環境が、本格的に弱ってきた時期に激変するという一方で、大きな精神的なショックにつながる可能性が考えられる。建て替え工事は慎重にすすめられねばならない。

本研究を進めるにあたり、回答して下さい有料老人ホームの入居者の方々をはじめ、設置・運営に関わってこられた職員の方々にも大変なご協力をいただいた。記して心から感謝申し上げる次第である。

なお、本研究は、1995、1996年度文部省科学研究費基盤研究(C)
(2)(課題番号07680015、代表・小川裕子)によるものである。

註

- 1) 矢野進一(建設省住宅政策課長)「高齢社会の住宅政策」
AGING 1996-春号、エイジング総合研究センター、p. 23
- 2) 和田 勝(厚生省大臣官房審議官・高齢者介護対策本部事務局
長)「介護保険制度について」AGING 1996-春号、エイジング総合
研究センター、p. 8
- 3) 厚生省「新ゴールドプランの具体的施策」1994年9月6日、
出典：『老後保障最新情報資料集12』、pp. 7-11
あけび書房、1995年6月
- 4) 老人福祉法第29条
- 5) 厚生省老人保健福祉局長私的諮問機関「有料老人ホームの健全
育成及び処遇の向上に関する検討会」報告書1995年3月、
出典：(社)全国有料老人ホーム協会「輝ニュース」Vol. 27、
1995年6月発行
- 6) シルバー新報 1996年2月25日
- 7) 大臣官房老人保健福祉部長通知「有料老人ホームの設置運営指
導指針について」1991年3月28日、別表1
- 8) 以下の資料から、入居年ごとの入居者の年齢(入居時点)を再
集計した結果、1988年までの入居グループでは65歳未満が約3割、
75歳以上が3割弱を占めていたのに対し、その後次第に高齢者が
増加し、1991、92年入居グループでは65歳未満が15%弱、75歳以上
が約4割を占めるという結果が得られた。(資料：(社)全国有
料老人ホーム協会『有料老人ホーム介護サービス及び費用に関す
る調査研究報告書』1993年3月)

第二章 一民間有料老人ホームにおける開設後 15年間の入居者の生活の変化

—その1 健康状態・通院と外出行動・趣味—

1 はじめに

本章では、高齢者向けの住宅、居住施設の一つの先行事例である有料老人ホームを対象として、第一章で明らかにした入退居状況をふまえつつ、入居者の生活（健康状態・通院と外出行動・趣味）が開設後15年間にどのように変化していくのかについて明らかにすることを目的としている。

一般に、変化を明らかにするための研究方法としては、「A. 記憶によって過去にさかのぼる（史的回想法）、B. 一時点の調査資料を変化の各段階のあらわれと考える（横断分析法）、C. 同一対象を追跡調査する（反復面接法）」があるが、Aは信頼性に欠ける面があり、Bは必ずしも変化をとらえられず、Cが最も信頼できるものの、「資料収集が困難」¹⁾と考えられている。本研究では、基本的にはBの横断分析法によって15年間に4回の入居者調査を実施したが、1～4次の計293の回答者世帯について、第一章の入退居状況をふまえることによって、各調査時期をポイントとしてどういう入居状況にあったのか（入

居パターン）、また、各次調査への回答状況（調査パターン）を明らかにすることができた（表1）。その結果、本調査では計画的に追跡調査を行ったわけではないが、Cの反復調査法による調査回答者世帯（すなわち、表1に示す入居パターン、調査パターン共に「1」）が26世帯あることがわかった。さらに、表2のような各次の調査回答者世帯の入居パターンの分布から、1～4次の調査にすべて回答しているわけではないが、1～4次調査の行われた期間中を通して入居していた回答者世帯が、1次調査で55世帯、2次調査で68世帯、3次調査で60世帯、4次調査で61世帯あることもわかった。これらの世帯の「変化」は、サンプル数としてやや小さい前述の反復調査法による26世帯の「変化」についての考察を補完するものと考えた。

したがって、本研究においては、「変化」を捉えるために、各次調査の回答者世帯全体の変化（横断的变化）とともに、各次調査回答者世帯の中でも入居パターン、調査パターン共に「1」である26世帯の変化（縦断的变化）、調査パターンは「1」以外であるが入居パターンは

表1 入居パターン・調査パターン別にみた調査対象数

調査パターン 1次 2次 3次 4次	入居パターン															計	
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
1	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	○	×	×	×	○	26 (14)
2	○	○	○	×	○	○	×	×	○	○	×	×	○	×	×	×	5
3	○	○	×	○	○	×	○	×	○	×	○	×	×	○	×	×	9
4	○	×	×	×													5
5	×	○	○	○													14
6	×	○	○	×													0
7	×	○	×	×													1
8	×	×	○	○													37
9	×	×	○	×													13
10	×	×	×	○													37
○：入居中	計	26 (14)	14	4	2	24	34	3	2	8	5	48	28	30	24	39	293

○：入居中 計 26 (14) 14 4 2 24 34 3 2 8 5 48 28 30 24 39 293
 < > 中の数字は、うち入居当初より一人世帯であった者の数を示す

表2 入居パターンごとにみた、各次調査の回答者世帯数

入居パターン	各次調査の回答者世帯数							
	1次	2次	3次	4次				
1	○	○	○	○	55 (27)	68 (34)	60 (30)	61 (36)
2	○	○	○	×	15	14	8	-
3	○	○	×	×	27	28	-	-
4	○	×	×	×	17	-	-	-
5	×	○	○	○	-	22	26	21
6	×	○	○	×	-	1	3	-
7	×	○	×	×	-	13	-	-
8	×	×	○	○	-	-	51	51
9	×	×	○	×	-	-	1	-
10	×	×	×	○	-	-	-	18
○：入居中	計	114 (47)	146 (54)	149 (49)	151 (27)			

< > 中の数字は、うち入居当初より一人世帯であった者の数を示す
 () 中の数字は、うち各調査時点において夫婦等二人世帯であった数を示す

「1」である世帯の変化（準縦断的变化）の3通りの変化を相互に比較しながら明らかにすることにする。

なお、本章において明らかにしたいと考えている健康状態・通院と外出行動・趣味といった内容の変化は、個人単位に明らかにするべきものである。本研究における調査の「世帯に1票、二人入居の場合は夫、または年長者に回答を依頼」という方法では、先に記した世帯のうち、さらに「当初から一人入居の世帯」に限るという手続きが必要になる。以上の結果、本章においては、横断的变化をみたサンプル数は、1次調査で114、2次調査で146、3次調査で149、4次調査で151である。ここでは二人世帯の場合、回答者についてのみの結果である。縦断的变化をみたサンプル数は14である。準縦断的变化をみたサンプル数は、1次調査で27、2次調査で34、3次調査で30、4次調査で36である。

2 加齢と健康状態の変化

2-1 加齢状況

加齢の状況を平均年齢で見ると、縦断的变化では、1次調査時62.8歳、2次調査時66.8歳、3次調査時73.8歳、4次調査時78.0歳と、当然のことながら15年間に15歳直線的に高齢化している。4次調査時の若干のずれは調査月の違いによると考えられる。これに対して、横断的变化では、1次調査時71.1歳、2次調査時72.8歳、3次調査時77.1歳、4次調査時78.9歳である。15年間に平均年齢は7.8歳高齢化している。この値は、一章でみた回答者世帯全員の平均年齢のより1~2歳高いが、二人世帯の回答者として

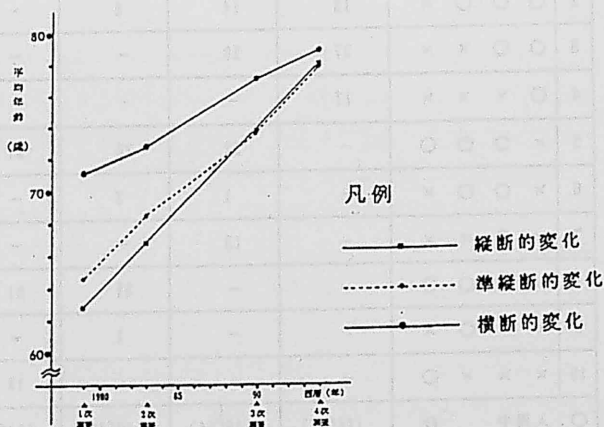


図1 平均年齢の変化

表8 園内診療所の概要

健康保険が利用可能であり、入居者ばかりでなく周辺地域の住民の利用も可能である。
1979年1次調査時：診療科目は内科、神経科で、診察日は月、火、水、金、土曜の週5日である。専属医師1名、24時間常駐看護婦1名。入院ベッド16。

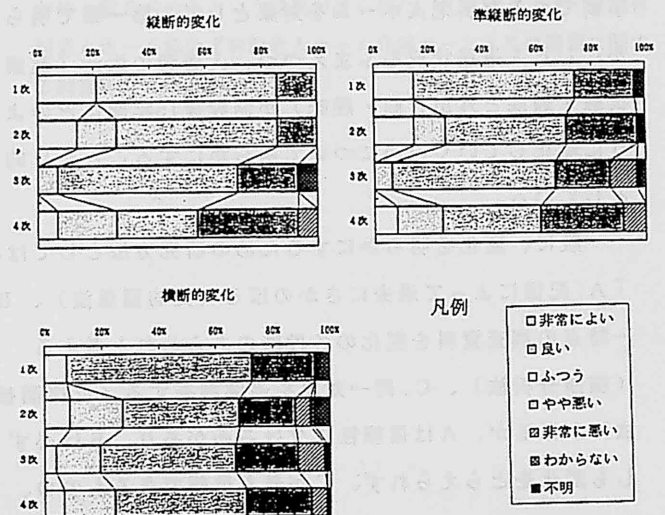


図2 健康状態の変化

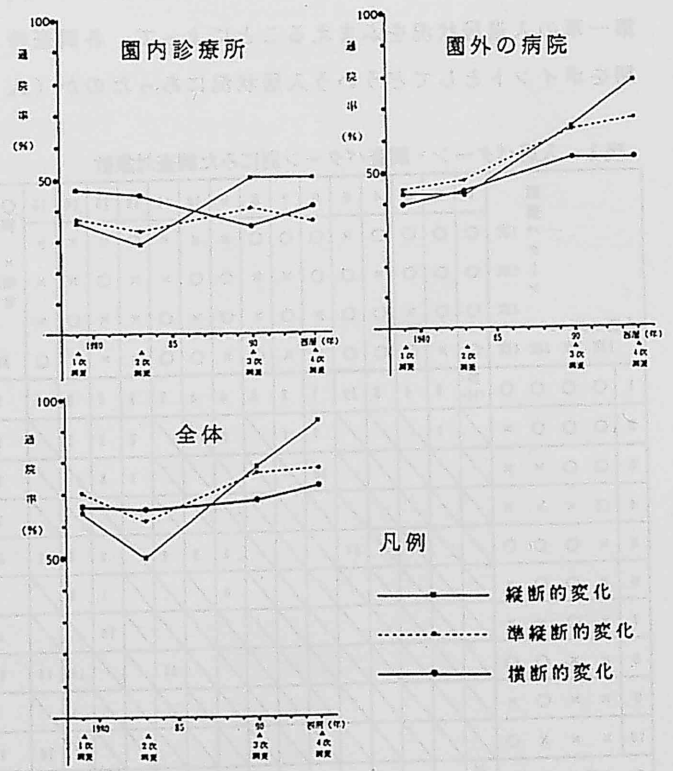


図3 通院率の変化

「夫または年長者」をお願いしたことから必然的な結果である。

以上の縦断的变化と横断的变化の各次調査時点の値の差について注目すると、1次調査時には8.3歳の差があったものがその後次第に縮まり、4次調査時には0.9歳の差である。以上のことから、まず、開設直後に入居した者のうちでも、その後15年間入居を継続した人々は、入居時年齢が入居者全体の平均年齢より5~7歳は若いということがわかった。また、彼ら15年間入居継続した人々は、入居後15年目にしようやく居住者全体の平均年齢(78.1歳、第一章、図3より)にほぼ等しくなる。以上のような縦断的变化や横断的变化をみるための調査回答者に認められる平均年齢の差は、以下で検討していく様々な側面における変化の背景として、踏まふまえておきたい。

2-2 健康状態の変化

健康状態の自己評価結果についての変化を図2に示した。自己評価の段階は、1次調査では3段階(良い、普通、悪い)、2~4次調査では6段階(図2の凡例に示す)である。同様に6段階で尋ねた2~4次調査結果の間での有意差の検定(カイ自乗検定)をおこなったが、いずれの変化についても差は認められなかった。しかし、縦断的变化、準縦断的变化においては、「やや悪い」「非常に悪い」割合は調査時期が後になるほど増加している。これらの変化ではサンプル数の少なさによって有意差が認められないものと考えられる。

3 通院状況の変化

3-1 通院率、通院頻度の変化

通院状況の変化をとらえるために、まず、園内診療所(概要については表3に示す)とその他の病院(入居前から係っている、あるいは診療科目や診療内容の関係で園内診療所では受診できない科目の設置されている阪神地域を中心とする病院)に分けて、各調査時点で通院している割合について、図3に示した。各々について縦断的变化、準縦断的变化、横断的变化における、1~4次調査結果の間での有意差検定をおこなったが、いずれの変化についても差は認められなかった。しかし、特に「園外の病院」については、縦断的变化、準縦断的变化において、特に2次調査以降の上昇傾向が認められる。健康状

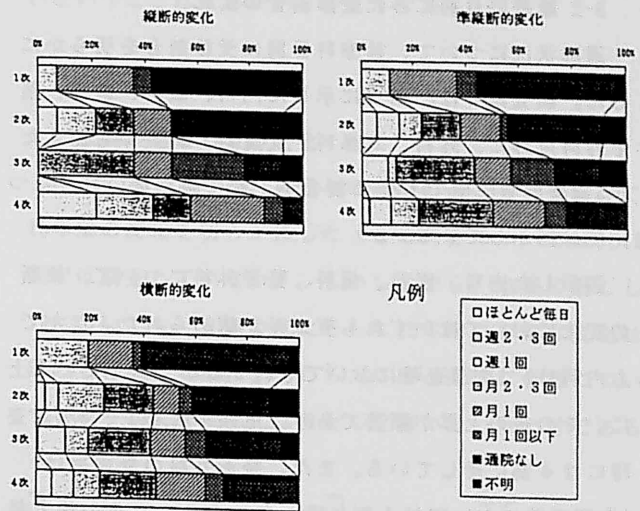


図4 通院頻度の変化

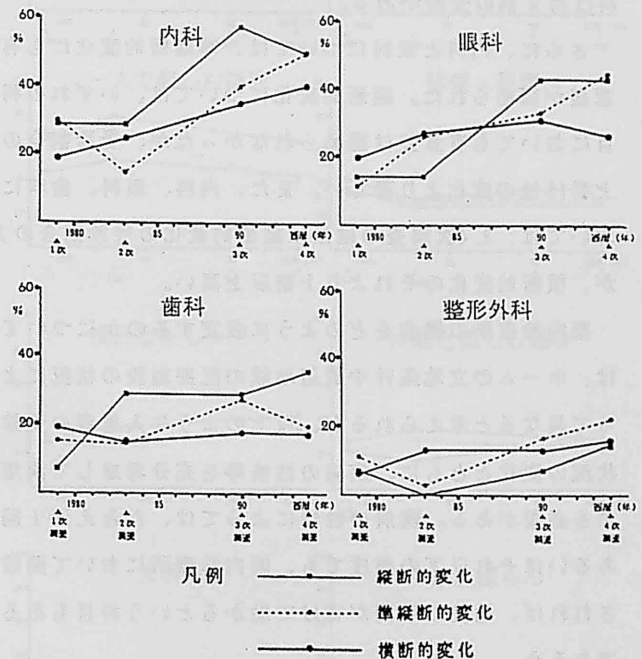


図5 診療科目別にみた受診割合の変化

態の変化と同様に、サンプル数の少なさが有意差の認められない原因と考えられる。

次に、通院頻度の変化について注目した(図4)。3通りの変化の内、横断的变化については、明かな有意差(0.1%以下の危険率)が認められた。2次調査以降「月2,3回」が急増するとともに「月1回」以上という者も増加し、「月1回以下」「通院なし」の者は減少している。縦断的变化、準縦断的变化については、これまでと同様にサンプル数の小ささゆえか有意差は認められなかったものの、横断的变化と同様な傾向が認められる。

3-2 診療科目別にみた受診割合の変化

通院状況について、診療科目別に受診割合を明らかにした。調査票では、図5に示した内科、眼科、歯科、整形外科以外に、外科、耳鼻科、皮膚科、針灸等も加えたが、4次調査の値でも受診割合が1割に満たない科目については図示していない。

図示した内科、眼科、歯科、整形外科について、横断的变化においてはいずれも有意差が認められた。なかでも内科は、1次調査時においても約2割が受診している上に、その後の上昇が顕著であり（危険率0.1%）、4次調査時には4割に達している。また、整形外科の受診率は、1次調査時には1割に満たないものの、その後上昇し（危険率1%）、4次調査時には2割に近くなる。眼科と歯科については、1~4次調査を通して眼科は約3割、歯科は約2割の受診がある。

さらに、内科と眼科については、準縦断的变化にも有意差が認められた。縦断的变化については、いずれの科目においても有意差は認められなかったが、受診割合の上昇は他の変化より著しい。また、内科、眼科、歯科においては、3,4次調査の結果は縦断的变化の受診割合の方が、横断的变化のそれより1割以上高い。

国内診療所の機能をどのように設定するのかについては、ホームの立地条件や周辺地域の医療施設の状況によって異なると考えられるが、以上のような入居者の受診状況の変化とともに、疾病の性格等を充分考慮して決定する必要がある。疾病の性格によっては、たとえ週1回、あるいはそれ以下の頻度でも、国内診療所において開設されれば、通院の手間が省けて助かるという科目もあるであろう。

4 外出行動の変化

4-1 外出頻度の変化

外出頻度の変化について、縦断的、準縦断的、横断的にみると図6に示すような結果となった。各々の変化について有意差検定を行なったが、有意差が認められたのは横断的变化についてのみであった（危険率5%）。横断的变化においては、「週5回以上」外出する割合は低下するものの、「週3,4回」はむしろ著しく増加している。また、「月1回以下」という外出頻度の少ない者はやや増加

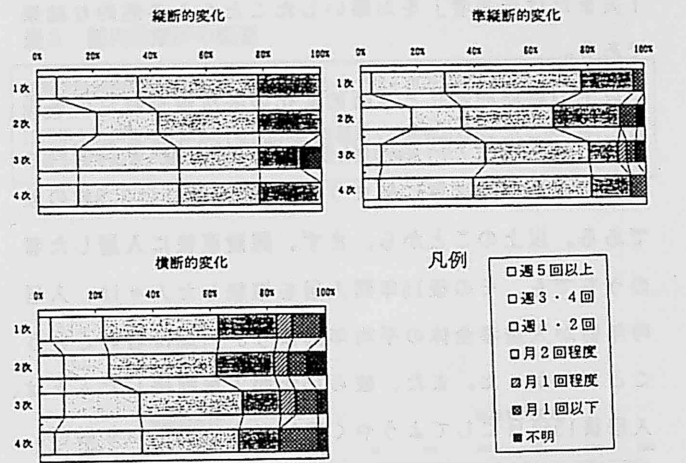


図6 外出頻度の変化

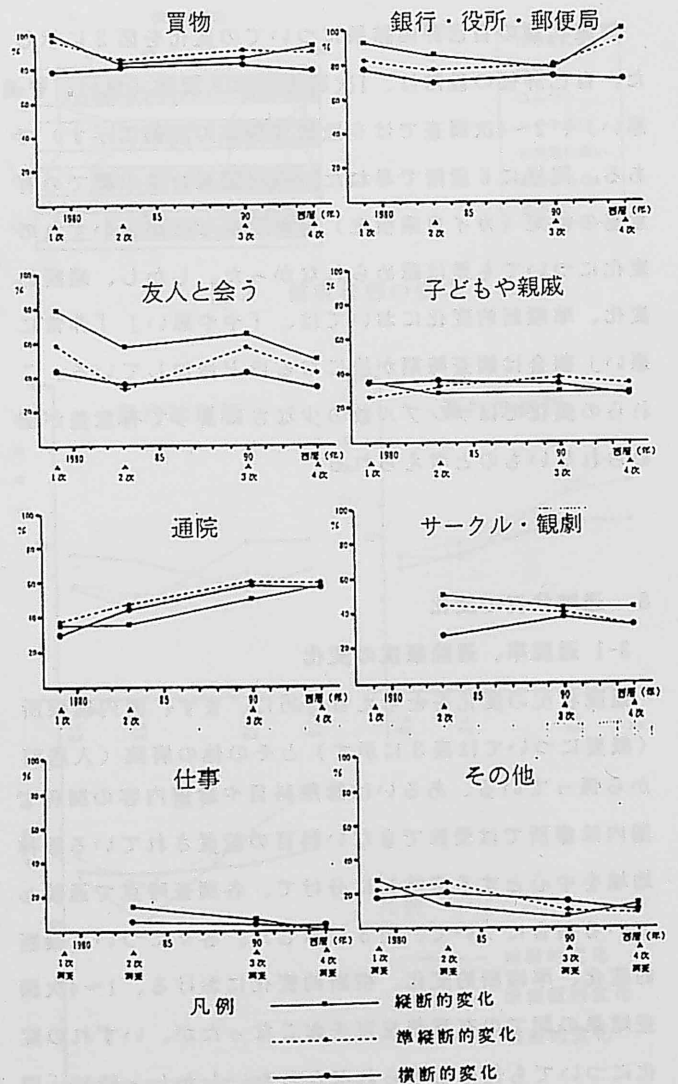


図7 外出先の変化

する。

これに対して、同一人物の外出頻度の変化を示す縦断的、準縦断的变化をみると、入居直後も、15年後もほとんど変化が認められないという結果である。すなわち、外出頻度は、大きくは本人が外出好きか否かで決まっていると考えられる。ただし、15年居住を続けている人には、入居者全体の平均像と比較すると、外出好きが多く、「月1回以下」しか外出しないという人は1割に満たないなど少ないことは明かである。

以上の結果から、ホームを決定する際には、自分が外出好きか否かによってホームの立地条件（中でも交通の便）に特に注意しておく必要を感じる。

4-2 外出先の変化

行き先別に外出状況の変化を示したものが図7である。図7には8通りの行き先別にみた外出状況を示しているが、これらの内、有意差の認められた変化は、通院の横断的变化のみであった。すなわち、その他の行き先については、3種の変化とも15年間という時の経過の中で有意な変化が無いというわけである。

まず、回答者の全体的な外出状況を見るために横断的变化に注目して把握する。まず、8通りの行き先の内、最も高く8割の回答者が外出しているのは、「買物」である。次に、「銀行・役所・郵便局」への外出が8割弱と続く。「通院」は、前述したように1次調査時は約3割であった値が3,4次調査では6割に上昇している。あと、回答者の4割程度が「友人と会う」ために外出しており、その後「子どもや親戚」「サークル・観劇」が続く。「仕事」は、回答者の1割以下である。

これらの外出先別にみた結果は、「通院」「子どもや親戚」「その他」以外では、いずれも横断的变化より縦断的变化の値のほうが4調査時点で共通してやや高くなっている。15年間継続入居者の場合、1次調査時には特に「若い」という特性があったが、4次調査時には横断的变化をみた回答者とほとんど変わらない平均年齢である。すなわち、これは先にみた外出頻度の結果と同様であり、15年間継続入居者は、より外出好きということになる。さらに、「友人と会う」という項目については、1次調査時点について縦断的变化と横断的变化の値に有意差が認められた（危険率5%）。15年間継続入居者の場合、回答者全体と比較すると、外出好きでホームの外に友人も多

いということにはまちがいないようである。

5 余暇の過ごし方の変化

図8に示すように、10通りの余暇の過ごし方を挙げて15年間の変化を明らかにした（この内容については3次調査では調査していない）。しかしながら、余暇の過ごし方についても、3種の変化とも15年間の有意な変化は認められなかった。すなわち、外出と同様に余暇についてもホーム入居後変化はほとんど無いというわけである。

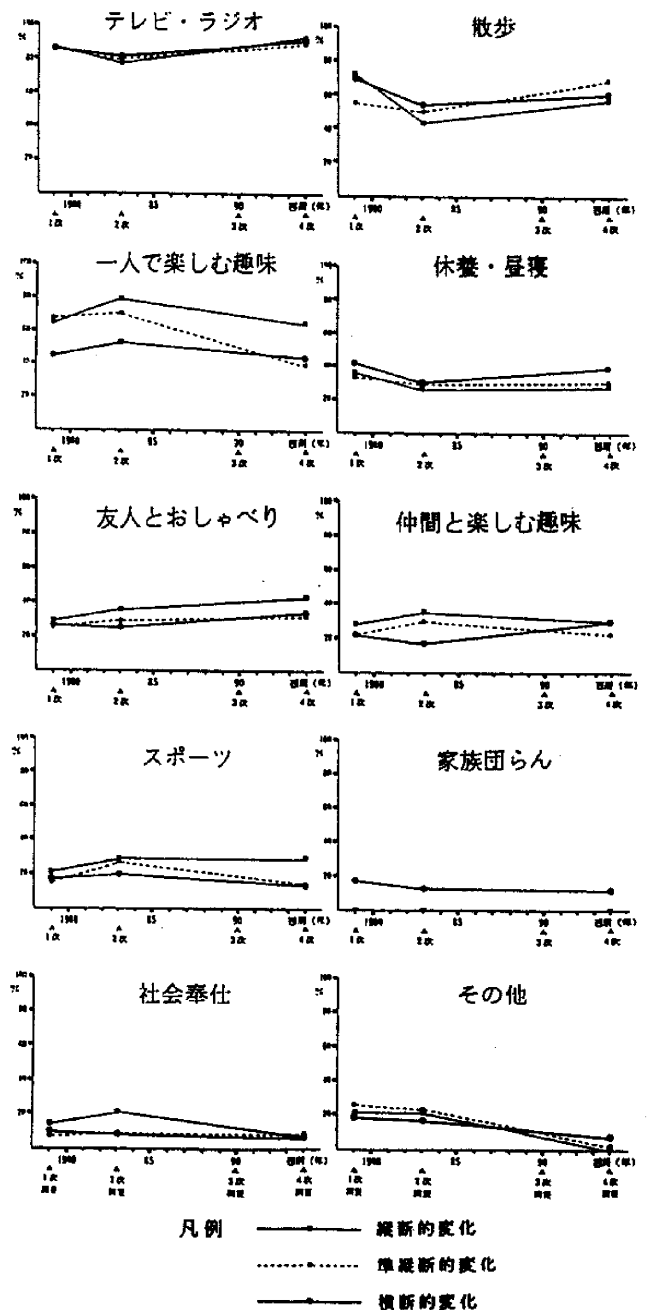


図8 余暇の過ごし方の変化

全体的な傾向を横断的変化の値でみると、9割以上と最も多い回答者が挙げた余暇の過ごし方は「テレビ・ラジオ」である。続いて「散歩」が6割前後、「一人で楽しむ趣味」が5割程度、「休養・昼寝」が4割程度、「友人とのおしゃべり」が3割程度、「仲間と楽しむ趣味」が2～3割、それ以下が「スポーツ」(1～2割)「家族の団らん」(1～2割)「社会奉仕」(1割以下)である。

以上のような余暇の過ごし方は、前述したように15年間に有意な差は認められないものの、弱冠の変化はある。特に、ここでは「テレビ・ラジオ」「休養・昼寝」といった消極的なもの以外の項目で、上昇している項目に注目すべきと考える。少しではあるが、1～2次の間に「一人で楽しむ趣味」、2～4次の間で「散歩」「友人とのおしゃべり」「仲間と楽しむ趣味」が上昇している。これらは、高齢化や虚弱化の進行するなかで、一般的には減少傾向を示すと考えられる余暇活動が、有料老人ホームという環境の中で支えられ、少しずつでも育まれていることを示していると考えられる。

縦断的変化と横断的変化の間で開きがみられる余暇の過ごし方として「一人で楽しむ趣味」があるが、有意差は認められなかったものの、特に2次調査の値の間で差が大きい。すなわち、15年間継続入居者の場合、回答者全体と比較すると、「一人で楽しむ趣味」をやって余暇を過ごす者が多いということが指摘される。

6 結 論

15年の間に、調査回答者の加齢は確実に進行し、健康状態についての自己評価をみても縦断的変化には「やや悪い」と答える者の増加がみられる。通院頻度については、横断的変化について明かな有意差が認められ、増加している。現状では、園内診療所の利用は横ばいであり、園外の病院への通院が増加している。診療科目としては、内科、眼科、歯科、整形外科が重要である。

外出については、その頻度も外出先についても15年間の変化はほとんど認められない。すなわち、外出について入居後に変化することはほとんど無いといえるので、有料老人ホーム等への入居を決める際には、自分の外出の志向に合致した条件を満たすホームを捜すことが重要であることが指摘される。ただし、買物、銀行・役所・郵便局への外出はほとんどの入居者が行っていることから、ホームの立地を決める際には重視したい。また、前述したことの例外となるが、通院については15年間に横断的変化に有意差が認められることも、ホームの立地を決める際に重視してほしい点である。

註

1) 在塚礼子「老年期の住み方変化に関する研究」(財)住宅総合研究財団 1994年 p.5

第三章 一民間有料老人ホームにおける開設後 15年間の入居者の生活の変化

一その2 共用施設の利用状況と子どもとの交流一

1 はじめに

本章では、第一章で明らかにした入退居動向と第二章で明らかにした入居者の健康状態・通院と外出行動・趣味の変化を踏まえ、有料老人ホームに用意されている様々な共用施設の利用実態と子どもとの交流状況についての15年間の変化の状況について明らかにする。ここでは、変化をみるにあたって、第二章で行ったような個人の単位ではなく、世帯単位での変化としてとらえる。従って、各々のサンプル数は、横断的変化については1次調査では114、2次調査では146、3次調査では149、4次調査では151、縦断的変化では1～4次調査で共通して26、準縦断的変化では1次調査では55、2次調査では68、3次調査では60、4次調査では61である。

2 共用施設の概要

調査対象とした有料老人ホームは、ごく初期に設置されたものの一つであり、1980年代の半ば以降に建設された豪華なホテルを連想させるような玄関ロビーやインストラクター付きのプール等はないが、表1に示すような様々な共用施設（第二章で述べた園内診療所は除いた）が用意されている。それらのほとんどは、図1に示すように、C棟の1階、2階（園内診療所）、3階とセンターに位置している。表1には、一つひとつの共用施設に関して、主として1次調査時と4次調査時の2時点における概要について示している。

3 「食堂」の利用状況の変化

まず、食事のとり方に注目する。調査では朝、昼、夕食別に、食堂の食事を食べるのか自炊するのか、あるいはそれ以外なのか尋ねた。さらに3、4次調査では、食堂の食事を食べる場合でも、食堂で食べるのか自室に運んでから食べるのか分けて答えてもらった。以上の結果を、

表1 共用施設の概要

大食堂 C棟1階	一時に240人が利用できる。費用は朝昼夕の3食1ヶ月で1次調査時3万円程度、4次調査時で47,400円。予約制だが、欠食届けなどの手続きで変更可能。食事の時刻は、朝食7:30～8:30、昼食11:45～13:15、夕食16:30～18:00（4次調査時）。A棟には、大食堂の分室としてサブセンターがあり、集会所としても利用されている。
大浴場 C棟センター	男女別に2室有り、女性用を広くとっている。温泉浴槽とよつうの浴槽と有り、安全と入り易さのために、手すりがついている。大浴場は毎日利用でき、費用は管理費でまかなわれる。
喫茶室 C棟1階	コーヒー、ティー、ジュースなどを格安の値段（200円、4次調査時）で楽しめる大食堂に隣接しており、食事中から食後の時間帯（12:00～14:00）だけ開かれる。入居者の趣味の一つでもある手作りのお菓子、ケーキの販売も行われる。
和室 C棟センター	八畳二間。床の間、炬燵がある。お茶、お花、琴、将棋、将棋などのサークルが利用している。
体育室 C棟センター	屋内の体操、ダンス、卓球等のスポーツの場。
集客室 C棟2階	会合、団らん、趣味や集いのための部屋。
応接室 C棟1階	当初は「相談室」として独立した個室を確保していたが、明確に「相談室」とすると敬遠されるので、普段は銀行の出張サービスの場などに使い、気軽に出入りできるように工夫している。
談話室	A、D、E棟エレベーターホール（2～4階）のわきの一角にある。入居者同士がテレビ、雑誌をみたり、おしゃべりをしたりするところ。
フロント C棟1階	事務室前のスペースにソファが備えられている。雑誌、新聞などが読めるし、入居者同士の交流の場でもあり、もちろん、入居者と従業員との交流の場でもある。
図書コーナー	売店のそばに本棚でコーナーを設けている。本は、入居者の集いの場が中心である。
運営・呉服室 C棟1階	予約制である。1次調査時には、運営・呉服とも週1日開店されていた。4次調査時には、運営は第2・第4月曜日、呉服は毎週水曜日開店されている。毎週予約で呉服とのこと。料金は、一般に比べ運営は割安だが、呉服は割高になる。外来者の利用も可能である。
売店 C棟1階3室とE棟	日用品、食料品、雑誌、たばこ等を扱っている。産・神戸生地の売店である。常時店員をおけるほどには利用されないが、昼食、夕食時だけ開店される。
ゲストルーム C棟3階4室とE棟	外来者のための宿泊室で3室ある。入居者の客はもちろん各住戸に自由に泊まれるが、多人数の来訪の場合の際などに利用できる。
散策路・自然公園	居住棟を取り囲む散策路、居住棟背後の斜面を造成して作られた自然公園は、居住者はもちろんのこと地域の人々の憩いの場となる。

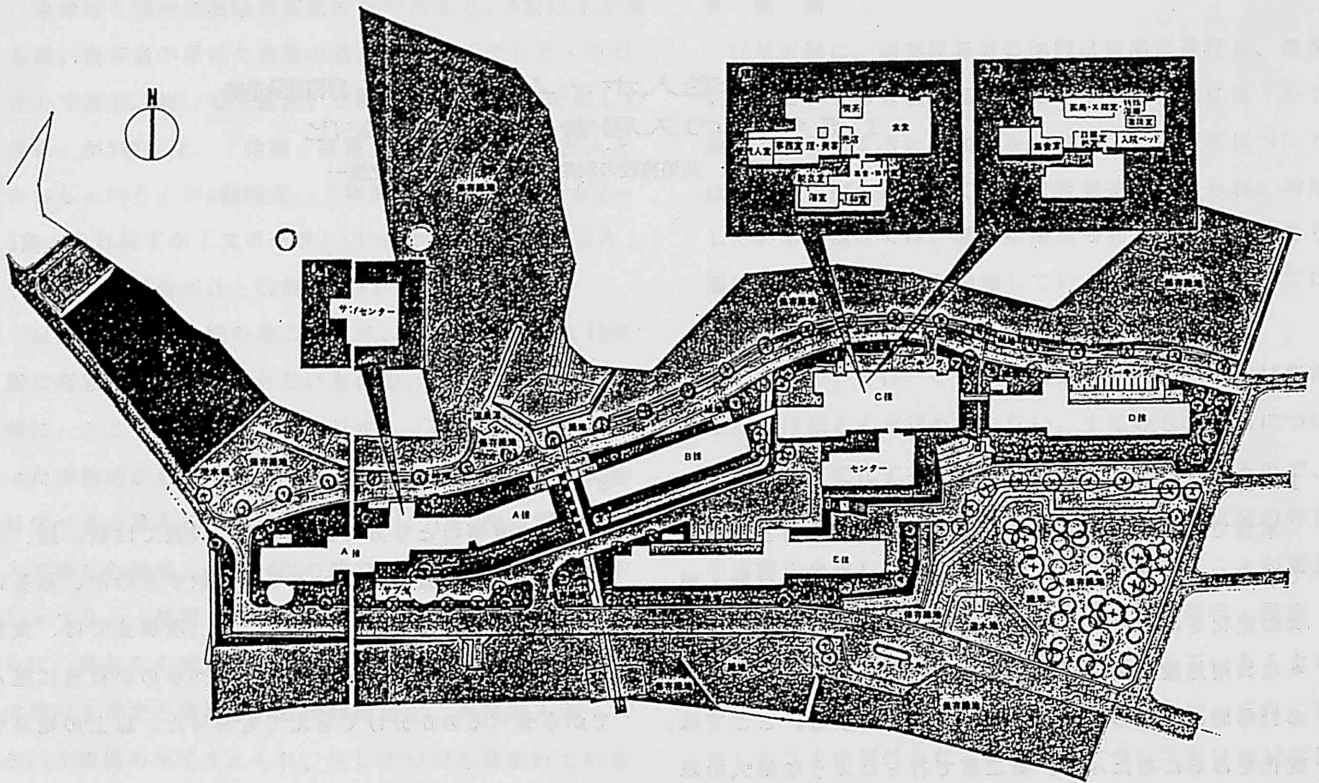


図1 調査対象有料老人ホームの配置図と共用施設の位置



図2 食事のとり方の変化

図2には、横断的变化、縦断的变化、準縦断的变化に分けて示した。

食堂の利用状況は、朝、昼、夕食で大きく異なることがわかる。横断的变化、縦断的变化、準縦断的变化ともに、夕食で最も利用が高く、逆に、最も利用が低いのが朝食である。昼食は、朝食と夕食の間である。3、4次調査で取り入れた「食堂の食事を自室に運んで食べる」という世帯は、特に夕食で多い。

15年間の食堂利用の変化に関しては、横断的变化、縦断的变化、準縦断的变化、また、朝、昼、夕食で共通して、1次調査時に最も高く、その後2次調査時に急減するが、3、4次調査時には次第に回復する。ただし、4次調査時でも1次調査時の利用率には達してはいない。以上のような経年変化について、有意差の認められたのは、横断的变化のみであった。

また、有意差は認められなかったものの、横断的变化と縦断的变化について各次の結果を比較してみると、食堂の利用は常に横断的变化の値より縦断的变化の値の方がやや少ない。すなわち、15年間継続入居している世帯では、やや自炊が多い傾向がある。

4 「大浴室」の利用状況の変化

次に、入浴に関して明かにするために、「大浴室」と「自宅浴室」の利用状況の変化について、図3に示した。

その結果、1~4次に至る時間の経過の中で、大浴室の利用は次第に減少し、逆に自宅浴室の利用が少し増加していることがわかった。この点について、横断的变化と準縦断的变化では有意差が認められた。ただし、ともに大浴室の利用の減少の方が自宅浴室の利用の増加より危険率が低い。すなわち、大浴室の利用の減少の方が自宅浴室の利用の増加より、より顕著に表れていることが指摘される。

また、各調査時点の横断的变化と縦断的变化の値を比

較すると、大浴室の利用は縦断的变化の値の方が高い。15年間継続入居している者は、特に1、2、3次調査時点の大浴室の利用が高く、4次調査時にその利用が急に低下し、代わりに自宅浴室の利用が高くなっている。

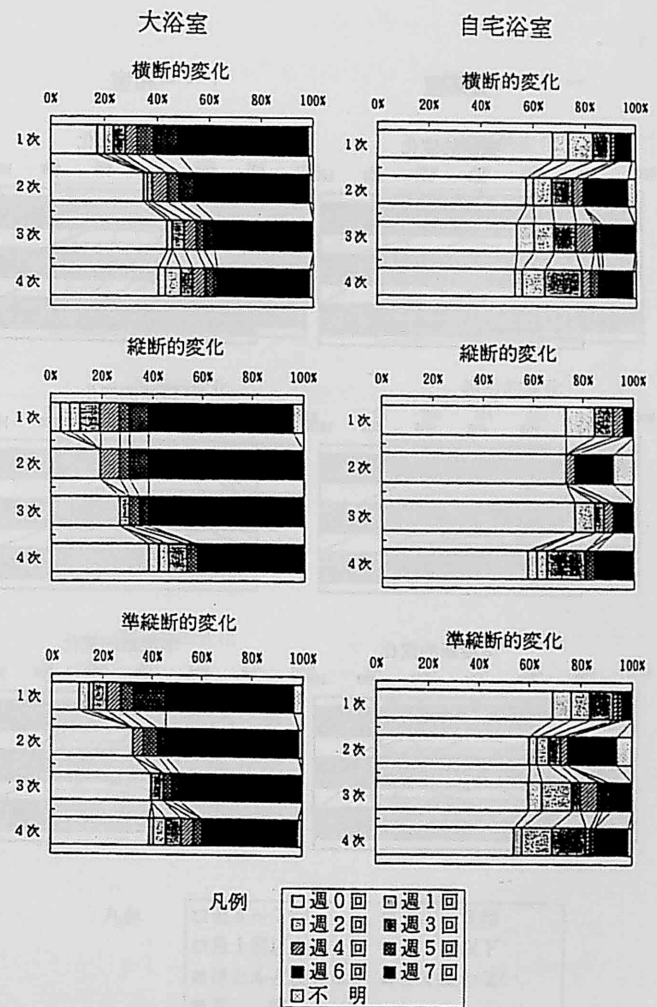


図3 入浴場所の変化

5 その他の共用施設の利用状況の変化

その他の共用施設の利用状況の変化について、図4-1~3に示した。この点に関して、調査においては2次調査以降に尋ねている。また、これらの問いに関しては調査票の設計に問題があったようで、特に2次、3次調査結果で「不明」が著しく多い。2次、3次調査では、各共用施設について利用がある場合のみ、その利用頻度を回答しているケースが多い。従って、「不明」のほとんどは「ほとんど使わない」「全く使わない」とであると判断できると考えた。

以下、個々の共用施設に関する横断的変化、縦断的変化、準縦断的変化の値とその有意差検定結果をもとに考察を進める。なお、ここでの有意差の検定にあたっては、前述したような調査票の設計ミスを考慮して、「ほとんど使わない」「全く使わない」と「不明」を一括して取り扱っている。

まず、利用の最も高い共用施設は、「売店」「散策路・公園」である。これらには調査時期による有意差も認められず、一貫して利用が高い。続いて利用の高い施設が「フロント」「集会室」「体育室」「理・美容院」である。「フロント」では調査時期による有意差は認められない。それに対して「集会室」「体育室」では3次調査時に利用頻度が高まっている。「理・美容院」では「月1回以上」の利用が減少するが、代わりに「月1回以下」の利用が増加して、「ほとんど使わない」「全く使わない」「不明」の合計にはほとんど変化がない。

続いて、利用のみられる共用施設は、「喫茶室」「和室」「談話室」である。これらのうち、「和室」については、調査時期を追う毎に利用が低下している。

その他、「応接室」「図書コーナー」の利用頻度は非常に限られたものであることがわかった。「ゲストルーム」については、4次調査時に利用が急減しているが、その理由は不明である。

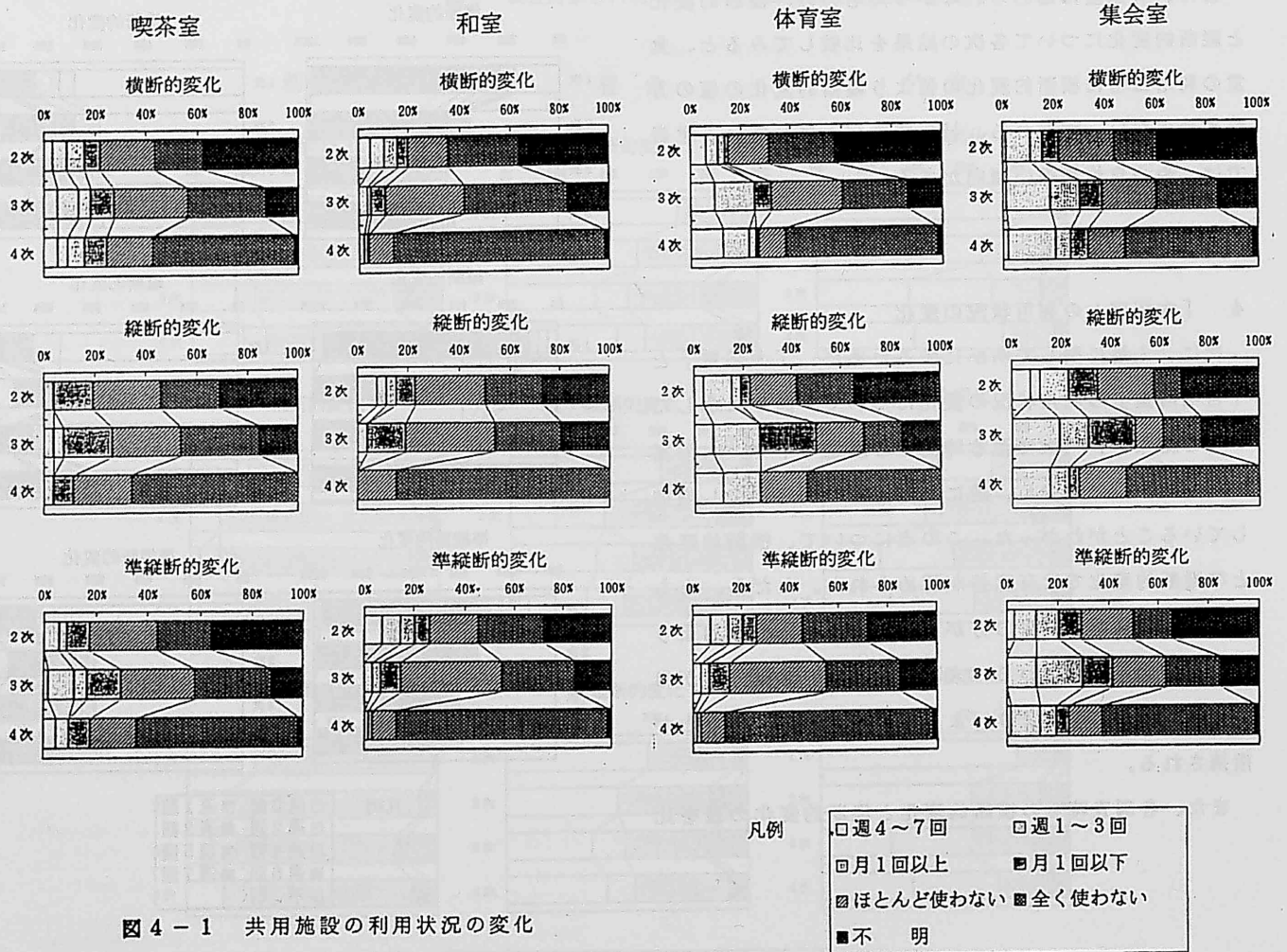


図4-1 共用施設の利用状況の変化

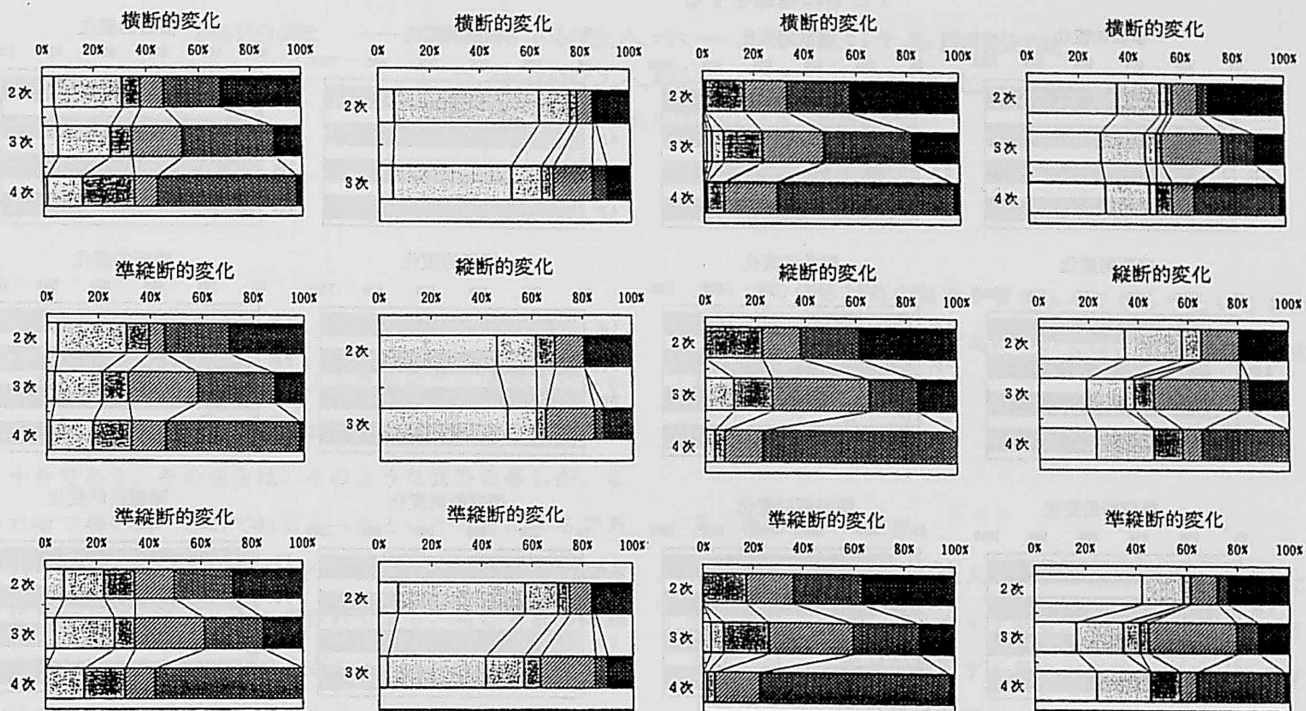
(喫茶室、和室、体育室、集会所)

理・美容室

売店

ゲストルーム

散策路・公園

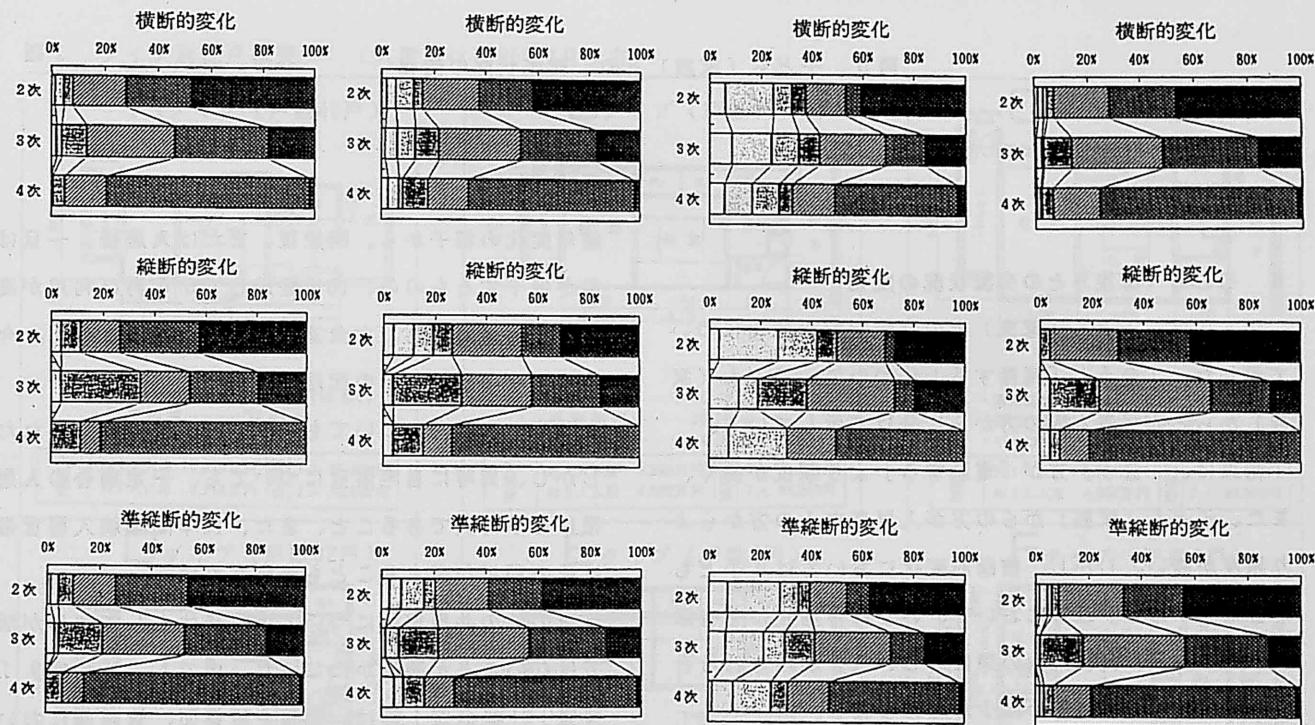


応接室

談話室

フロント

図書コーナー



凡例

□ 週4~7回	□ 週1~3回
□ 月1回以上	□ 月1回以下
▨ ほとんど使わない	■ 全く使わない
■ 不明	

図4-2 共用施設の利用状況の変化

(応接室、談話室、フロント、図書コーナー)

(理・美容室、売店、ゲストルーム、散策路・公園)

子どもから電話がある

入居者自身が
子どもに電話をする

子どもが会いに来る

入居者自身が
子どもに会いに行く

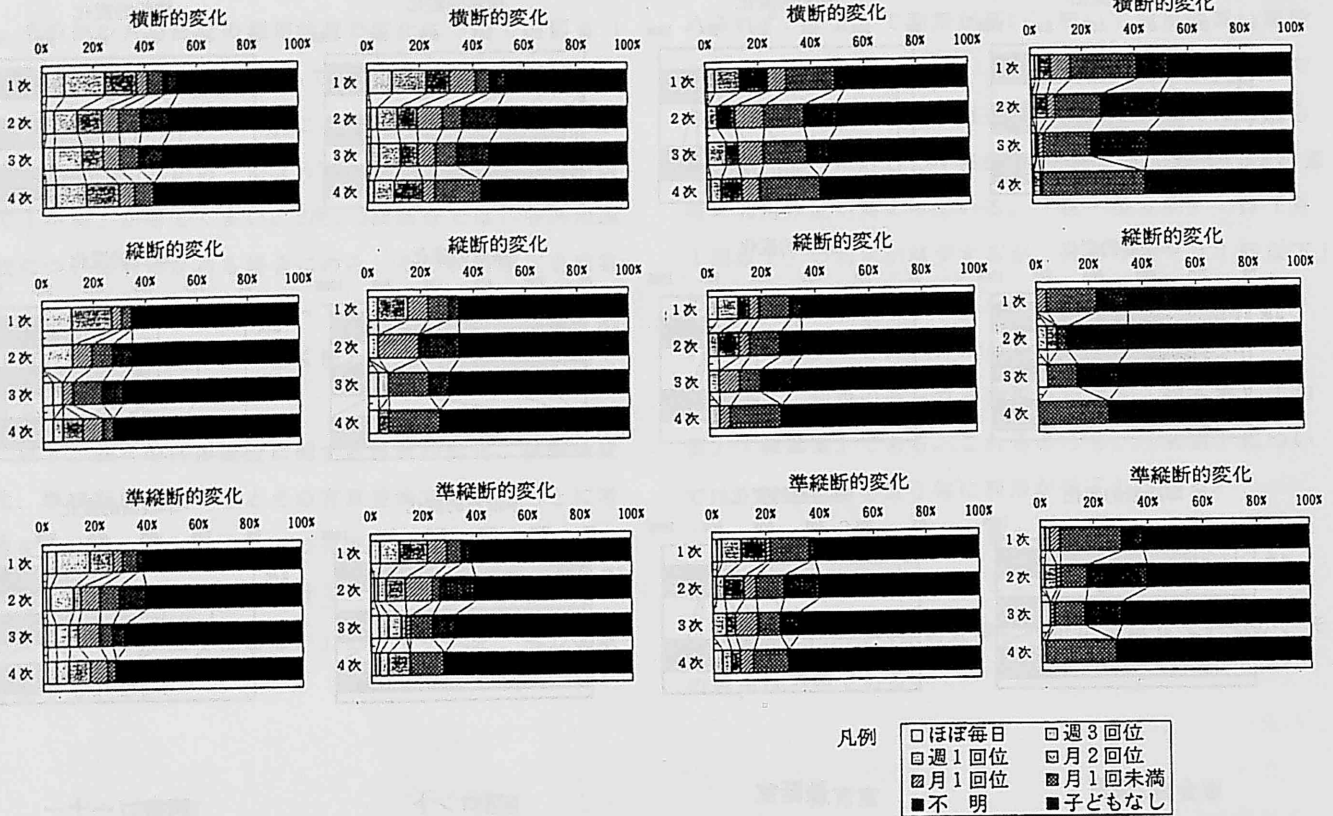


図5 子ども（家族）との、交流状態の変化

6 子ども（家族）との交流状況の変化

図5には、子ども（家族）との交流状況の変化について示した。「会う」「電話する」について、子ども（家族）からと入居者本人の方からに分けて示している。

結果は、「会う」方が「電話する」より頻度が高く、また、子ども（家族）からの方が入居者本人の方からより頻度が高い。しかし、横断的变化においては「子どもから電話がある」以外において、いずれの場合にも有意差が認められ、1次と2次の間に著しい減少がみられるとともに、その後も交流の減少が認められる。

7 結論

大食堂の利用は、夕食を中心に非常に高い。しかも、

経年変化の様子から、開設後、または入居後、一旦は利用が低下するものの、10年経過してから再び利用が高まることも確認され、大食堂の重要性が実証された。今後は、食事の各住戸への配達が課題であろう。

共用の大浴室についても、その重要性は実証された。しかし、同時に自宅浴室についても、一定割合の入居世帯には不可欠であること、また、15年間継続入居世帯ではその利用が高まることも実証された。

その他の共用施設については、全体として利用が活発ではないことが明らかになった。中でも、「和室」「体育室」「集会室」等は、面積や設備面、管理面において負担が大きい反面、利用についてソフト面で入居者に対する支援を行わなければ、有効な利用はほとんど困難といえよう。「売店」「散策路・公園」「理・美容室」「喫茶室」は効果的に利用されていた。

第四章 一民間有料老人ホームにおける開設後

1 5年間の入居者の生活の変化

—その3 専用住戸内における生活の場の変化—

1 はじめに

高齢者のみの世帯がどのような住宅で生活することがふさわしいのか、わが国における研究成果はまだまだ不十分である。その理由は、そのような世帯の暮しが、これまで長い間一般的ではなかったということによるであろう。しかし、今後このような高齢者のみの世帯が急速に増加していくことが予想されており、特に大都市に限られた広さのなかでそれをどのように実現していくのかについては、重要な課題である。

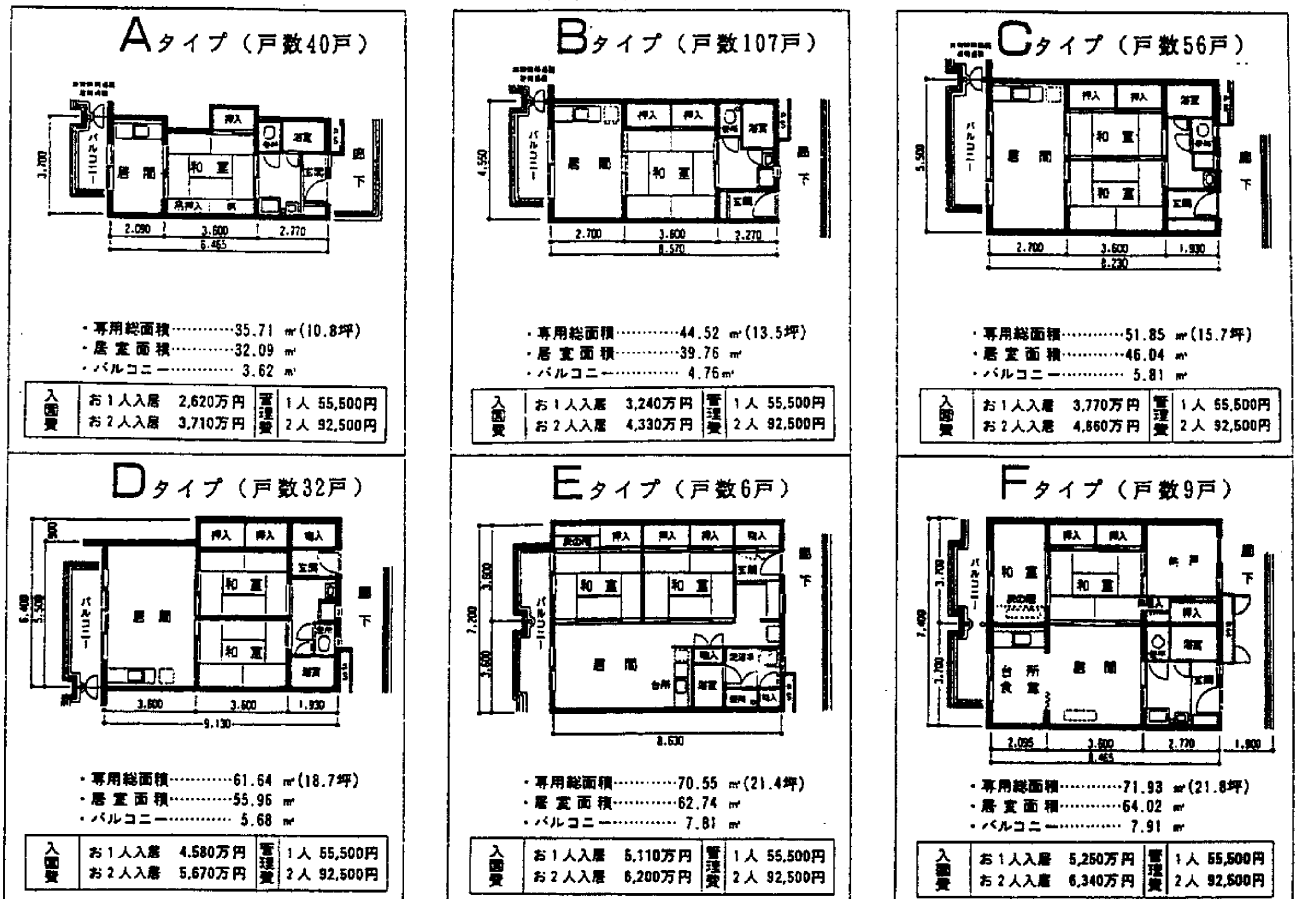
研究の方法は、調査票の中に該当する住戸プランを張り付けておき、〈就寝〉〈接客〉〈日中過ごす〉〈食事〉

の4つの生活行為の場所を書き込んでもらうというものである。これらの生活行為については、高齢者の日常生活を考慮して設定した。

2 専用住戸の概要

調査対象とした有料老人ホームの専用住戸は、図1に示す通り、主として6タイプある。A、B、C、Dの4タイプは、いずれも南面する居室が居間（いかしと略す）1室であり、その奥に和室が1または2室並んであるという間取りである。E、Fタイプについては、南面居室としてLと和室の双方があるという間取りである。

図1 タイプ別住戸概要 (入園金は1995年3月現在)



3 住戸タイプ別にみた生活の場の変化

ここでは、前述した〈就寝〉〈接客〉〈日中過ごす〉〈食事〉の4つの生活行為の場を、以下の5つのパターンに分類した。まず、〈就寝〉をLでするのか和室であるのかで二分し、さらに、和室で〈就寝〉する場合については、その他の3行為が和室で重複して行われる程度によって、次の4つに分類した。(a)：和室を〈就寝〉のみに使う、(b)：和室を〈接客〉にも使う、(c)：和室を〈日中過ごす〉または〈食事〉にも使う、(d)：4生活行為をすべて和室で行う、である。また、Lで〈就寝〉する場合については(e)とした¹⁾。表1には、生活行為の場のパターンについて、住戸タイプ別に15年間にどの様に変化したのかについて示した。

以上の結果を、まず、A～Dタイプ全戸の傾向に注目する。2次調査結果までの段階では、(a)：和室を〈就寝〉のみに使う、が47.6%から53.7%へと上昇し、「同一室内における生活行為の重複による混乱を避ける方向へと変化」¹⁾していると考えていた。ところがこの傾向は、3次調査時点にはすでに1次調査時点程度の状態まで戻り(48.5%)、4次調査時には42.0%まで低下しているのである。反面、上昇したのは、(c)：和室を〈日中過ごす〉または〈食事〉にも使う、(d)：4生活行為をすべて和室で行う、という和室で就寝するばかりでなく、日中の生活の場としても多様に活用しているという住み方である。なお、(e)：Lで〈就寝〉するという住み方については、15年間ほとんど変動がない。

これらの結果を住戸タイプ別にみると、和室が1室であったり(A、Bタイプ)、また2室あっても狭い場合(Cタイプ)に、(c)(d)の住み方が増加する傾向が認められる。就寝するところと日中過ごすところが非分離の状態になることは、いったいどういう理由によるものか、次に、事例的にみていくことにする。

4 生活の場の変化についての事例の検討

表2には、同一世帯に対して、11年以上の期間にわたって生活の場について明らかにしている20世帯について、事例的に変化を示している。3でみたような変化の事例は20例中6例で認められる。今後これらの事例について、居住者自身の変化(健康状態等)と家具等の変化に注目することによって、前述の課題を解明していきたい。

5 結論

2次調査結果までの段階で一旦まとめていた住み方の変化では、和室を〈就寝〉のみに使う世帯が増加し、〈接客〉〈日中過ごす〉〈食事〉といったその他の生活行為はLで行うことによって、生活が秩序立てられる方向にあると考えていた。ところがこの傾向は、3次調査時にはすでにずれが見え始めていた。今後この理由を解明していきたい。

表1 生活行為の場からみた住戸タイプ別住み方の変化

生活行為の場からみた住み方	住戸タイプ																計							
	調査 A				B				C				D				1次	2次	3次	4次				
	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次				
和室でA就寝	3	9	9	2	8	23	23	24	18	20	19	15	10	14	13	14	39	47.6%	66	53.7%	64	48.5%	55	42.0%
和室でB就寝	2	2	3	4	9	6	8	8	4	3	3	4	2	3	2	5	17	20.7	14	11.4	16	12.1	21	16.0
和室でC就寝	6	6	8	9	2	7	13	12	3	5	2	6	1	4	2	1	12	14.6	22	17.9	25	18.9	28	21.4
和室でD就寝	2	1	3	4	1	3	2	6	0	0	1	0	0	0	1	0	3	3.7	4	3.3	7	5.3	10	7.6
和室でE就寝	1	2	0	1	6	13	16	14	4	1	2	1	0	1	2	1	11	13.4	17	13.8	20	15.2	17	13.0
計	14	20	23	20	26	52	62	64	29	29	27	26	13	22	20	21	82	100.0	123	100.0	132	100.0	131	100.0

* C、Dタイプでは和室は2部屋ある

表2 部屋の使い方変化の事例

住戸タイプ	家族形態	調査期 の人数*	部屋の使い方*			
			1次調査時	2次調査時	3次調査時	4次調査時
A	一人(女)	1 2/3	居間 回回回 和室 回	前次同様	居間 回回 和室 回回	
	一人(女)	1 2 3 4	居間 回回回 和室 回	前次同様	前次同様	前次同様
	一人(女)	2/3/4		居間 回回 和室 回回	居間 回回 和室 回 (???)	居間 回 和室 回回
B	一人(女)	1/ 3/4	居間 回回 和室 回回回		居間 回回 和室 回回	居間 回回 和室 回回回
	1(女)母<(2.4歳)女(女)	1/2 4	居間 回回回 和室 回回	居間 回回回 和室 回		前次同様
	(2.3歳)母<(4歳)女(女)	2/3 4		居間 回回回 和室 回	居間 回 和室 回 (回回 は不明)	前次同様
	一人(男)	1 2 3	居間 回回回 和室 回	前次同様	前次同様	
C	一人(女)	1 2 3 4	居間 回回回 和1 回	前次同様	前次同様	前次同様
	一人(女)	1/2 /4	居間 回回回 和1 回	居間 回回回 和1 回 和2 回		居間 回回回 和1 回 和2 回
	一人(女)	1/2 3 4	居間 回回回回	居間 回回回 和1 回	前次同様	前次同様
	夫婦	1 /3	居間 回回回 和1 回 和2 回		居間 回回回 和1 回 和2 回	
	(1歳)母<(2歳)母<(3.4歳)女(女)	1/2/3 4	和2 回 (回回回 は不明)	居間 回回回 和1 回 和2 回	居間 回回回 和2 回	前次同様
	一人(女)	1/2 3 4	居間 回回回 和2 回 (回 は不明)	居間 回回回 和2 回 (???)	前次同様	前次同様
D	一人(女)	1 2 4	居間 回回回 (回は廊下ではなし)	居間 回 (回回回 は不明)		居間 回回回回
	一人(女)	1 2 3/4	居間 回回回 和1 回	前次同様	前次同様	居間 回回回 和1 回回
	夫婦	2/3/4		和室 回 (回回回 は不明)	居間 回回回 和1 回	居間 回回 和1 回 和2 回
	夫婦	1/2/3	居間 回回回 和1 回 和2 回	居間 回回回 和1 回回 和2 回	居間 回回回 和1 回 和2 回回	
	夫婦	1 2 3 4	居間 回回回 和1 回 和2 回	前次同様	前次同様	前次同様
E	(1.2.3歳)母<(4歳)女(女)<(4歳)母	1/2 3	居間 回回回 和1 回 和2 回回	居間 回回回 和2 回 和2 回	前次同様	
	(1歳)母<(2.3歳)女(女)	1/2/3	和1 回回 和2 回回回	居間 回回回 和2 回	居間 回回回 和2 回	

注1：部屋の使い方が前回の調査時と比較し変化があった場合は/で示した。
 注2：和室が2部屋ある場合は空間に近い和室を 和1、空間から遠い和室を 和2と示した。
 食事をするを回、就寝するを回、日中過ごすを回、接客するを回で示した。

註

1) 小川裕子「有料老人ホームにおける住戸内生活の検討
 —E圏における追跡調査—」奈良女子大学家政学会家政
 学研究Vol.31 No.2 p.117

なお、第3章、第4章の図表の作成にあたっては、
 青島延江さん（現・静岡市役所勤務）に大変なご協力を
 いただいた。記して心から感謝申し上げます。

資料編

1. 個人の加齢と健康状態、通院の変化

表1-1 年齢

	1次			2次			3次			4次		
	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化
～59歳	8	5	3	4	1	1	0	0	0	0	0	0
60～64歳	13	7	5	18	9	4	3	0	0	1	0	0
65～69歳	27	11	6	25	10	4	18	6	2	6	0	0
70～74歳	22	3	0	32	9	5	32	11	5	35	11	3
75～79歳	30	0	0	39	4	0	36	9	6	34	12	5
80～84歳	12	1	0	26	1	0	31	4	1	41	9	6
85～89歳	2	0	0	2	0	0	19	0	0	21	3	0
90～歳	0	0	0	0	0	0	4	0	0	7	1	0
不明	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	0	0
サンプル計	114	27	14	146	34	14	149	30	14	151	36	14

表1-2 健康状態

		非常によい	良い	ふつう	やや悪い	非常に悪い	わからない	不明	計
1次	横断的変化	9	/	74	25	/	/	6	114
	準縦断的変化	4	/	16	6	/	/	1	27
	縦断的変化	3	/	9	2	/	/	0	14
2次	横断的変化	13	27	60	28	8	2	8	146
	準縦断的変化	5	4	15	9	0	0	1	34
	縦断的変化	2	2	8	2	0	0	0	14
3次	横断的変化	6	23	71	32	14	1	2	149
	準縦断的変化	0	2	18	6	3	0	1	30
	縦断的変化	0	1	9	3	0	0	1	14
4次	横断的変化	10	27	70	34	8	0	2	151
	準縦断的変化	3	6	13	11	3	0	0	36
	縦断的変化	1	3	4	5	1	0	0	14

表1-3 通院率の変化

		1次			2次			3次			4次						
		有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数				
通院の有無	横断的变化	76	66.7%	4	114	95	65.1%	6	146	101	67.8%	4	149	109	72.2%	1	151
	準縦断的变化	19	70.4%	1	27	21	61.8%	1	34	23	76.7%	0	30	28	77.8%	0	36
	縦断的变化	9	64.3%	0	14	7	50.0%	1	14	11	78.6%	0	14	13	92.9%	0	14
通院先 園内診療所	横断的变化	53	46.5%	4	114	65	44.5%	7	146	51	34.2%	5	149	61	40.4%	2	151
	準縦断的变化	10	37.0%	1	27	11	32.4%	2	34	12	40.0%	0	30	13	36.1%	1	36
	縦断的变化	5	35.7%	0	14	4	28.6%	1	14	7	50.0%	0	14	7	50.0%	0	14
通院先 園外の病院	横断的变化	45	39.5%	4	114	64	43.8%	9	146	81	54.4%	7	149	82	54.3%	1	151
	準縦断的变化	12	44.4%	1	27	16	47.1%	2	34	19	63.3%	0	30	24	66.7%	0	36
	縦断的变化	6	42.9%	0	14	6	42.9%	1	14	9	64.3%	0	14	11	78.6%	0	14

表1-4 通院頻度の変化

		ほとんど毎日	週2・3回	週1回	月2・3回	月1回	月1回以下	通院なし	不明	計
		1次	横断的变化	0	0	22	0	19	4	65
	準縦断的变化	0	0	3	0	7	2	14	1	27
	縦断的变化	0	0	1	0	4	1	8	0	14
2次	横断的变化	5	7	25	27	15	7	44	16	146
	準縦断的变化	2	3	3	5	5	1	12	3	34
	縦断的变化	0	1	2	2	2	0	6	1	14
3次	横断的变化	1	15	13	35	20	12	43	10	149
	準縦断的变化	0	3	1	9	4	5	5	3	30
	縦断的变化	0	0	0	5	2	4	2	1	14
4次	横断的变化	9	12	15	32	29	11	42	1	151
	準縦断的变化	1	3	4	10	7	3	8	0	36
	縦断的变化	0	3	3	2	4	1	1	0	14

表1-5 診療科目

		1次				2次				3次				4次							
		有	通院なし	不明	サンプル計	有	通院なし	不明	サンプル計	有	通院なし	不明	サンプル計	有	通院なし	不明	サンプル計				
内科	横断的变化	21	18.4%	65	4	114	36	24.7%	44	16	146	52	34.9%	43	9	149	60	39.7%	42	2	151
	準縦断的变化	8	29.6%	14	1	27	5	14.7%	12	4	34	12	40.0%	5	3	30	18	50.0%	8	0	36
	縦断的变化	4	28.6%	8	0	14	4	28.6%	6	2	14	8	57.1%	2	1	14	7	50.0%	1	0	14
眼科	横断的变化	22	19.3%	65	4	114	39	26.7%	44	16	146	46	30.9%	43	9	149	40	26.5%	42	2	151
	準縦断的变化	3	11.1%	14	1	27	9	26.5%	12	4	34	10	33.3%	5	3	30	16	44.4%	8	0	36
	縦断的变化	2	14.3%	8	0	14	2	14.3%	6	2	14	6	42.9%	2	1	14	6	42.9%	1	0	14
歯科	横断的变化	21	18.4%	65	4	114	22	15.1%	44	16	146	26	17.4%	43	9	149	26	17.2%	42	2	151
	準縦断的变化	4	14.8%	14	1	27	5	14.7%	12	4	34	8	26.7%	5	3	30	7	19.4%	8	0	36
	縦断的变化	1	7.1%	8	0	14	4	28.6%	6	2	14	4	28.6%	2	1	14	5	35.7%	1	0	14
整形外科	横断的变化	7	6.1%	65	4	114	19	13.0%	44	16	146	19	12.8%	43	9	149	24	15.9%	42	2	151
	準縦断的变化	3	11.1%	14	1	27	1	2.9%	12	4	34	5	16.7%	5	3	30	8	22.2%	8	0	36
	縦断的变化	1	7.1%	8	0	14	0	0.0%	6	2	14	1	7.1%	2	1	14	2	14.3%	1	0	14
外科	横断的变化	2	1.8%	65	4	114	4	2.7%	44	16	146	5	3.4%	43	9	149	8	5.3%	42	2	151
	準縦断的变化	0	0.0%	14	1	27	0	0.0%	12	4	34	0	0.0%	5	3	30	1	2.8%	8	0	36
	縦断的变化	0	0.0%	8	0	14	0	0.0%	6	2	14	0	0.0%	2	1	14	0	0.0%	1	0	14
耳鼻科	横断的变化	5	4.4%	65	4	114	8	5.5%	44	16	146	11	7.4%	43	9	149	10	6.6%	42	2	151
	準縦断的变化	1	3.7%	14	1	27	0	0.0%	12	4	34	1	3.3%	5	3	30	3	8.3%	8	0	36
	縦断的变化	0	0.0%	8	0	14	0	0.0%	6	2	14	0	0.0%	2	1	14	1	7.1%	1	0	14
皮膚科	横断的变化	4	3.5%	65	4	114	6	4.1%	44	16	146	6	4.0%	43	9	149	6	4.0%	42	2	151
	準縦断的变化	2	7.4%	14	1	27	1	2.9%	12	4	34	1	3.3%	5	3	30	3	8.3%	8	0	36
	縦断的变化	2	14.3%	8	0	14	0	0.0%	6	2	14	0	0.0%	2	1	14	1	7.1%	1	0	14
針灸	横断的变化	2	1.8%	65	4	114	4	2.7%	44	16	146	4	2.7%	43	9	149	3	2.0%	42	2	151
	準縦断的变化	1	3.7%	14	1	27	1	2.9%	12	4	34	1	3.3%	5	3	30	0	0.0%	8	0	36
	縦断的变化	0	0.0%	8	0	14	0	0.0%	6	2	14	0	0.0%	2	1	14	0	0.0%	1	0	14

表1-6 余暇の過ごし方

		1次			2次			4次					
		有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数			
テレビ・ラジオ	横断的变化	97	85.1%	3	114	118	80.8%	5	146	136	90.1%	2	151
	準縦断的变化	23	85.2%	0	27	27	79.4%	1	34	33	91.7%	0	36
	縦断的变化	12	85.7%	0	14	11	78.6%	1	14	13	92.9%	0	14
散歩	横断的变化	78	68.4%	3	114	79	54.1%	5	146	93	61.6%	2	151
	準縦断的变化	15	55.6%	0	27	17	50.0%	1	34	25	69.4%	0	36
	縦断的变化	10	71.4%	0	14	6	42.9%	1	14	8	57.1%	0	14
一人で楽しむ趣味	横断的变化	51	44.7%	3	114	77	52.7%	5	146	65	43.0%	2	151
	準縦断的变化	18	66.7%	0	27	24	70.6%	1	34	14	38.9%	0	36
	縦断的变化	9	64.3%	0	14	11	78.6%	1	14	9	64.3%	0	14
休養	横断的变化	47	41.2%	3	114	44	30.1%	5	146	59	39.1%	2	151
	準縦断的变化	9	33.3%	0	27	10	29.4%	1	34	11	30.6%	0	36
	縦断的变化	5	35.7%	0	14	4	28.6%	1	14	4	28.6%	0	14
グループでの学習	横断的变化	31	27.2%	3	114	37	25.3%	5	146	51	33.8%	2	151
	準縦断的变化	7	25.9%	0	27	10	29.4%	1	34	11	30.6%	0	36
	縦断的变化	4	28.6%	0	14	5	35.7%	1	14	6	42.9%	0	14
友人との会話	横断的变化	25	21.9%	3	114	25	17.1%	5	146	45	29.8%	2	151
	準縦断的变化	6	22.2%	0	27	10	29.4%	1	34	8	22.2%	0	36
	縦断的变化	4	28.6%	0	14	5	35.7%	1	14	4	28.6%	0	14
スポーツ	横断的变化	19	16.7%	3	114	28	19.2%	5	146	20	13.2%	2	151
	準縦断的变化	4	14.8%	0	27	9	26.5%	1	34	5	13.9%	0	36
	縦断的变化	3	21.4%	0	14	4	28.6%	1	14	4	28.6%	0	14
家族団らん	横断的变化	19	16.7%	3	114	19	13.0%	5	146	19	12.6%	2	151
	準縦断的变化	0	0.0%	0	27	0	0.0%	1	34	0	0.0%	0	36
	縦断的变化	0	0.0%	0	14	0	0.0%	1	14	0	0.0%	0	14
社会奉仕	横断的变化	11	9.6%	3	114	12	8.2%	5	146	9	6.0%	2	151
	準縦断的变化	2	7.4%	0	27	3	8.8%	1	34	3	8.3%	0	36
	縦断的变化	2	14.3%	0	14	3	21.4%	1	14	1	7.1%	0	14
その他	横断的变化	21	18.4%	3	114	24	16.4%	5	146	12	7.9%	2	151
	準縦断的变化	7	25.9%	0	27	8	23.5%	1	34	1	2.8%	0	36
	縦断的变化	3	21.4%	0	14	3	21.4%	1	14	0	0.0%	0	14

表1-7 外出回数

		週5回以上	週3・4回	週1・2回	月2回程度	月1回程度	月1回以下	不明	計
1次	横断的变化	5	21	46	23	6	11	2	114
	準縦断的变化	1	7	13	5	0	1	0	27
	縦断的变化	1	4	6	3	0	0	0	14
2次	横断的变化	13	23	55	29	7	9	10	146
	準縦断的变化	6	6	11	8	0	2	1	34
	縦断的变化	3	3	5	3	0	0	0	14
3次	横断的变化	13	39	54	19	8	11	5	149
	準縦断的变化	2	11	11	3	1	1	1	30
	縦断的变化	2	5	4	2	0	0	1	14
4次	横断的变化	8	46	51	21	0	20	5	151
	準縦断的变化	2	12	15	5	0	2	0	36
	縦断的变化	2	5	4	3	0	0	0	14

表1-8 外出先

		1次			2次			3次			4次						
		有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数	有	不明	サンプル数				
買い物	横断的变化	89	78.1%	8	114	117	80.1%	6	146	122	81.9%	7	149	118	78.1%	5	151
	準縦断的变化	26	96.3%	1	27	29	85.3%	0	34	27	90.0%	1	30	32	88.9%	0	36
	縦断的变化	14	100.0%	0	14	13	92.9%	0	14	12	85.7%	1	14	13	92.9%	0	14
友人	横断的变化	50	43.9%	8	114	52	35.6%	6	146	63	42.3%	7	149	50	33.1%	5	151
	準縦断的变化	16	59.3%	1	27	11	32.4%	0	34	17	56.7%	1	30	15	41.7%	0	36
	縦断的变化	11	78.6%	0	14	8	57.1%	0	14	9	64.3%	1	14	7	50.0%	0	14
子ども	横断的变化	39	34.2%	8	114	51	34.9%	6	146	50	33.6%	7	149	40	26.5%	5	151
	準縦断的变化	7	25.9%	1	27	11	32.4%	0	34	11	36.7%	1	30	12	33.3%	0	36
	縦断的变化	5	35.7%	0	14	4	28.6%	0	14	4	28.6%	1	14	4	28.6%	0	14
病院	横断的变化	34	29.8%	8	114	64	43.8%	6	146	86	57.7%	7	149	85	56.3%	5	151
	準縦断的变化	10	37.0%	1	27	16	47.1%	0	34	18	60.0%	1	30	21	58.3%	0	36
	縦断的变化	5	35.7%	0	14	5	35.7%	0	14	7	50.0%	1	14	8	57.1%	0	14
銀行	横断的变化	87	76.3%	8	114	101	69.2%	6	146	109	73.2%	7	149	107	70.9%	5	151
	準縦断的变化	22	81.5%	1	27	26	76.5%	0	34	24	80.0%	1	30	34	94.4%	0	36
	縦断的变化	13	92.9%	0	14	12	85.7%	0	14	11	78.6%	1	14	14	100.0%	0	14
サークル おけいこ	横断的变化	21	18.4%	8	114	39	26.7%	6	146	55	36.9%	7	149	49	32.5%	5	151
	準縦断的变化	9	33.3%	1	27	15	44.1%	0	34	12	40.0%	1	30	12	33.3%	0	36
	縦断的变化	5	35.7%	0	14	7	50.0%	0	14	6	42.9%	1	14	6	42.9%	0	14
仕事	横断的变化					8	5.5%	6	146	6	4.0%	7	149	4	2.6%	5	151
	準縦断的变化					2	5.9%	0	34	1	3.3%	1	30	0	0.0%	0	36
	縦断的变化					2	14.3%	0	14	1	7.1%	1	14	0	0.0%	0	14
その他	横断的变化	20	17.5%	8	114	31	21.2%	6	146	22	14.8%	7	149	16	10.6%	5	151
	準縦断的变化	6	22.2%	1	27	9	26.5%	0	34	3	10.0%	1	30	3	8.3%	0	36
	縦断的变化	4	28.6%	0	14	2	14.3%	0	14	1	7.1%	1	14	2	14.3%	0	14

2. 世帯の食事、入浴、共用施設利用の変化

表2-1 食事

		横断的变化				準縦断的变化				縦断的变化			
		1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次
朝食	食堂で	39	25	26	31	15	11	6	9	6	3	1	1
	自室			12	14			6	9			2	4
	自炊	71	105	83	94	39	52	38	37	20	22	20	19
	その他	2	6	21	6	0	2	3	4	0	0	3	2
	不明	2	10	7	6	1	3	7	2	0	1	0	0
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26
昼食	食堂で	77	75	52	65	32	31	21	25	16	10	9	8
	自室			19	17			8	7			4	4
	自炊	30	51	43	55	20	26	20	24	9	12	11	13
	その他	6	10	10	9	3	6	2	2	1	3	0	0
	不明	1	10	25	5	0	5	9	3	0	1	2	1
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26
夕食	食堂で	98	97	56	60	44	42	17	23	18	11	6	7
	自室			49	53			20	21			8	9
	自炊	11	35	28	30	8	18	14	12	7	11	10	8
	その他	5	5	1	4	3	3	1	3	1	1	0	1
	不明	0	9	15	4	0	5	8	2	0	3	2	1
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26

表 2 - 2 入浴回数（一週間当たり）

		1次			2次			3次			4次		
		横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化	横断的変化	準縦断的変化	縦断的変化
大浴室利用	週0回	20	6	1	51	22	5	65	24	7	61	24	10
	1回	3	2	1	2	0	0	3	0	0	4	1	1
	2回	4	1	1	0	0	0	0	0	0	9	3	1
	3回	5	3	2	3	0	0	7	3	1	7	4	2
	4回	5	3	2	8	3	2	7	0	0	7	3	0
	5回	7	3	1	7	4	1	4	2	1	5	2	1
	6回	11	7	2	8	2	2	6	2	1	2	0	0
	7回	57	28	15	65	36	16	57	29	16	54	23	11
	不明	2	2	1	2	1	0	0	0	0	2	1	0
	サンプル計	114	55	26	146	68	26	149	60	26	151	61	26
自宅浴室	週0回	77	38	19	84	41	19	80	36	20	80	33	15
	1回	7	4	3	4	2	0	10	3	0	4	2	1
	2回	11	4	0	10	3	0	11	7	2	13	7	1
	3回	8	5	2	12	3	0	13	2	1	22	8	4
	4回	2	1	1	6	2	1	10	4	1	5	1	0
	5回	1	1	0	0	0	0	2	1	0	5	1	1
	6回	0	0	0	0	0	0	3	2	0	2	0	0
	7回	6	2	1	25	13	4	19	5	2	18	8	4
	不明	2	0	0	5	4	2	1	0	0	2	1	0
	サンプル計	114	55	26	146	68	26	149	60	26	151	61	26
シャワーのみ	週0回	97	44	22	105	51	20	120	52	24	133	54	23
	1回	3	2	1	4	0	0	8	3	0	5	2	1
	2回	6	3	1	7	3	1	5	1	0	2	0	0
	3回	2	2	0	7	3	1	5	0	0	2	0	0
	4回	0	0	0	2	2	1	0	0	0	2	1	1
	5回	3	3	2	3	1	0	3	1	0	1	1	0
	6回	1	0	0	3	1	0	0	0	0	1	1	1
	7回	2	1	0	8	3	0	8	3	2	3	1	0
	不明	0	0	0	7	4	3	0	0	0	2	1	0
	サンプル計	114	55	26	146	68	26	149	60	26	151	61	26

表 2 - 3 自宅浴室と大浴場の必要性

	横断的変化		準縦断的変化		縦断的変化	
	2次	3次	2次	3次	2次	3次
両方必要	119	112	56	47	23	22
自宅浴室のみで可	20	29	10	11	3	4
大浴場のみで可	1	1	0	0	0	0
わからない	0	6	0	2	0	0
不明	6	1	2	0	0	0
サンプル計	146	149	68	60	26	26

表2-4 自宅浴室の利用状況(利用実態)

	横断的变化				準縦断的变化				縦断的变化			
	2次 N=146		3次 N=149		2次 N=68		3次 N=60		2次 N=26		3次 N=26	
	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○	◎	○
入浴	61	20	64	31	25	9	24	12	5	5	9	4
洗濯	6	17	2	22	3	8	1	8	1	3	0	3
雑巾を洗うなど	5	32	3	47	5	16	1	18	1	7	0	5
清掃用具収納場	5	22	3	26	3	13	1	14	2	5	0	5
他の物の収納	36	21	31	22	22	11	14	12	12	4	9	6
その他	0	3	2	6	0	1	0	2	0	0	0	1

複数回答

表2-5 園内施設の利用 (喫茶室・和室・体育室・集会所)

		横断的变化			準縦断的变化			縦断的变化		
		2次	3次	4次	2次	3次	4次	2次	3次	4次
喫茶室	週4~7回	5	8	8	0	1	3	0	0	0
	週1~3回	8	12	6	4	6	3	1	1	1
	月1回以上	10	7	10	2	3	0	0	1	0
	月1回以下	9	14	13	6	8	5	4	5	2
	ほとんど使わない	32	43	28	18	17	11	7	7	6
	全く使わない	27	46	84	14	18	38	6	8	17
	不明	55	19	2	24	7	1	8	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
和室	週4~7回	7	0	0	5	0	0	2	0	0
	週1~3回	8	5	3	5	2	0	1	1	0
	月1回以上	8	2	2	4	2	1	1	0	0
	月1回以下	6	9	1	4	5	1	2	4	0
	ほとんど使わない	23	46	15	13	24	6	7	9	4
	全く使わない	41	62	127	18	18	52	6	7	22
	不明	53	25	3	19	9	1	7	5	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
体育室	週4~7回	9	14	19	6	5	8	1	2	3
	週1~3回	7	24	16	6	12	5	3	5	4
	月1回以上	4	0	4	3	0	0	1	0	0
	月1回以下	2	10	2	1	7	1	1	6	0
	ほとんど使わない	24	42	16	12	16	8	5	5	5
	全く使わない	38	39	91	15	13	38	6	4	14
	不明	62	20	3	25	7	1	9	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
集会所	週4~7回	2	2	3	2	0	1	2	0	0
	週1~3回	14	26	28	6	7	7	1	5	4
	月1回以上	7	17	9	6	11	4	3	3	2
	月1回以下	9	13	10	6	7	3	3	5	1
	ほとんど使わない	32	32	22	14	13	8	6	3	5
	全く使わない	25	36	76	11	13	37	3	4	14
	不明	57	23	3	23	9	1	8	6	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26

表2-6 園内施設の利用 (応接室・談話室・フロント・図書室)

		横断的变化			準縦断的变化			縦断的变化		
		2次	3次	4次	2次	3次	4次	2次	3次	4次
応接室	週4~7回	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	週1~3回	2	3	0	1	2	0	0	1	0
	月1回以上	5	3	1	2	1	0	1	0	0
	月1回以下	5	14	7	4	10	4	2	8	3
	ほとんど使わない	29	49	23	11	19	5	4	5	2
	全く使わない	36	53	117	19	19	51	8	7	21
	不明	69	27	3	31	9	1	11	5	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
談話室	週4~7回	3	2	4	2	1	3	1	0	1
	週1~3回	5	7	6	3	0	2	2	0	0
	月1回以上	10	10	2	6	3	0	2	1	0
	月1回以下	5	14	15	3	9	5	2	7	3
	ほとんど使わない	32	47	24	14	21	7	7	7	3
	全く使わない	30	44	97	14	18	43	4	7	19
	不明	61	25	3	26	8	1	8	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
フロント	週4~7回	9	13	9	5	4	1	1	0	0
	週1~3回	27	23	16	14	9	5	6	3	2
	月1回以上	11	16	16	5	5	9	4	2	6
	月1回以下	8	12	8	3	7	4	2	5	0
	ほとんど使わない	23	39	25	10	18	10	5	9	5
	全く使わない	9	23	72	6	8	31	1	2	13
	不明	59	23	5	25	9	1	7	5	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
図書コーナー	週4~7回	2	1	1	1	0	1	0	0	0
	週1~3回	3	3	2	2	1	1	0	1	1
	月1回以上	2	1	1	1	0	0	0	0	0
	月1回以下	4	16	6	2	10	2	1	5	1
	ほとんど使わない	31	51	27	17	23	9	7	11	3
	全く使わない	36	53	111	15	19	47	7	6	21
	不明	68	24	3	30	7	1	11	3	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26

表2-7 園内施設の利用 (洗濯室・理美容室・売店・ゲストルーム・散策路)

		横断的变化			準縦断的变化			縦断的变化		
		2次	3次	4次	2次	3次	4次	2次	3次	4次
洗濯室	週4~7回	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	週1~3回	3	2	0	1	1	0	0	0	0
	月1回以上	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	月1回以下	1	6	4	0	5	3	0	4	0
	ほとんど使わない	12	45	9	8	23	4	4	9	1
	全く使わない	57	69	135	28	23	53	11	9	25
	不明	73	26	3	31	8	1	11	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
理・美容室	週4~7回	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	週1~3回	7	9	2	3	2	1	2	1	0
	月1回以上	38	30	21	18	11	10	4	6	4
	月1回以下	10	12	30	6	6	9	3	2	4
	ほとんど使わない	13	29	13	4	16	8	4	7	3
	全く使わない	32	53	82	17	18	32	6	6	15
	不明	46	16	3	20	7	1	7	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
売店	週4~7回	9	8		5	2		0	0	
	週1~3回	84	70		34	23		12	13	
	月1回以上	18	18		9	9		4	3	
	月1回以下	4	7		3	4		2	1	
	ほとんど使わない	9	23		6	13		3	5	
	全く使わない	2	9		1	3		0	1	
	不明	20	14		10	6		5	3	
	サンプル計	146	149		68	60		26	26	
ゲストルーム	週4~7回	0	2	0	0	0	0	0	0	0
	週1~3回	1	3	1	0	2	0	0	0	0
	月1回以上	1	7	1	0	3	1	0	3	1
	月1回以下	22	23	10	12	11	2	6	4	1
	ほとんど使わない	25	36	32	13	20	11	4	10	4
	全く使わない	35	51	104	18	16	46	6	5	20
	不明	62	27	3	25	8	1	10	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26
散策路 ・公園	週4~7回	52	43	46	29	10	15	9	5	6
	週1~3回	24	26	26	11	11	13	6	4	6
	月1回以上	4	6	4	2	4	0	2	1	0
	月1回以下	3	3	9	0	2	7	0	2	3
	ほとんど使わない	14	35	13	7	21	4	4	9	2
	全く使わない	6	19	50	3	5	21	0	1	9
	不明	43	17	3	16	7	1	5	4	0
	サンプル計	146	149	151	68	60	61	26	26	26

表2-8 子どもとの交流

		横断的变化				準縦断的变化				縦断的变化			
		1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次	1次	2次	3次	4次
子どもが会いに来る	ほぼ毎日	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0
	週3回位	3	0	1	2	1	0	0	2	1	0	0	1
	週1回位	11	5	10	6	4	2	3	2	2	1	1	0
	月2回位	12	10	7	12	5	5	2	2	1	2	0	0
	月1回位	8	16	14	10	1	3	5	3	1	1	2	1
	月1回未満	21	22	25	35	8	7	5	8	3	3	2	5
	不明	4	18	12	0	1	9	4	0	1	2	3	0
	子どもなし	54	74	80	86	34	41	41	44	17	17	18	19
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26
あなたが会いに行く	ほぼ毎日	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	1	0
	週3回位	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	週1回位	2	2	0	1	1	1	0	0	0	1	0	0
	月2回位	5	6	1	4	1	3	0	1	0	1	0	0
	月1回位	9	5	3	1	2	1	1	0	1	0	0	0
	月1回未満	29	26	28	59	18	7	7	16	5	1	3	7
	不明	13	32	31	0	4	15	8	0	3	6	4	0
	子どもなし	54	74	83	86	34	41	42	44	17	17	18	19
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26
子どもから電話がある	ほぼ毎日	2	2	1	2	1	1	1	1	0	0	1	1
	週3回位	8	5	6	6	2	1	2	2	0	0	1	0
	週1回位	18	13	16	18	7	6	3	3	3	3	0	1
	月2回位	14	14	12	19	5	2	2	5	4	0	0	2
	月1回位	5	10	10	9	2	5	5	4	1	2	1	2
	月1回未満	7	12	11	11	3	5	3	2	1	2	3	1
	不明	6	16	13	0	1	7	3	0	0	2	2	0
	子どもなし	54	74	80	86	34	41	41	44	17	17	18	19
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26
あなたが電話をする	ほぼ毎日	1	2	2	1	0	1	2	1	0	0	1	1
	週3回位	10	4	5	3	2	1	2	1	0	0	1	0
	週1回位	15	11	12	12	4	2	3	2	1	1	0	0
	月2回位	10	11	10	16	6	5	1	5	3	0	0	1
	月1回位	11	14	10	7	4	7	1	0	2	4	0	0
	月1回未満	6	11	12	26	3	2	5	8	2	0	4	5
	不明	7	19	18	0	2	9	5	0	1	4	2	0
	子どもなし	54	74	80	86	34	41	41	44	17	17	18	19
	サンプル計	114	146	149	151	55	68	60	61	26	26	26	26

3 調査票 (4次調査)

--	--

園での日常生活に関する調査
(世帯票)

静岡大学教育学部家庭科
家庭科教育研究室
助教授 小川裕子

アンケートのお願い

紅葉の美しい季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、私たちの研究室では、これからの高齢者向けの住宅に関する研究をすすめております。園では、開設直後の昭和54年と、昭和58年、さらに平成2年の3回にわたって、皆様の御協力のもとに調査を行い、大変有効な示唆を得ることができました。このたび、開設後15年を経た園での生活について、もう一度、皆様の意見をお尋ねして、今後の研究の参考にさせていただきたく思っております。

なお、この調査結果につきましては、研究以外の目的に使用することはいっさいございません。お忙しいところ大変恐縮ではございますが、御協力の程よろしくお願い致します。

アンケートの記入のしかた

記入の方法は、当てはまる番号を選んで○をつけるか、空欄に記入していただくようになっております。

ご夫婦、または、複数で入居されている場合は、本世帯票については、御主人、または、年長の方がご記入下さいますよう宜しくお願い致します。

調査員
小川裕子
青島延江
大岡麻子
岡本有子
元場由香理
八木京子

連絡先
〒422 静岡市大谷836
静岡大学教育学部家庭科
家庭科教育研究室 小川裕子
☎(054)237-1111 (内線4759)

*調査期間内は園のゲストルームにあります。

【専用住所】

1. 部屋についておたずねします。今のあなたの部屋についてどのように考えていますか。それぞれについて当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- A 自宅内での車イスの利用
1. 使用できなくても今のままでよい
 2. 将来のために使用できるようにしてほしい
 3. わからない

- B 広さ
1. ちょうどよい
 2. 狭い(理由)
 3. 広すぎる
 4. わからない

- C 間取り
1. よい
 2. 問題がある(理由)
 3. わからない

2. 部屋の使い方について、おたずねします。右の平面図に、寝室には、(1)。日中主に過ごす部屋には、(2)。来客をもてなす部屋には、(3)。また、自宅で食事をする場合に使う部屋には、(4)を書き込んで下さい。

二人以上で入居されている場合で、それぞれが、異なる使い方をなさる場合には、(2)や、(3)のようにどちらの方が、どの様な使い方をなさるのが分かるようにお書き下さい。

3. 寝具についておたずねします。

①あなたは現在、ふとんとベッドのどちらをお使いですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. ふとん 2. ベッド

②あなたは将来、ふとんとベッドのどちらを使いたいですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. ふとん 2. ベッド

【共同施設】

4. 入浴についておたずねします。あなたはこの一週間に何回、入浴しましたか。場所別にお答え下さい。

1. 大浴場（ 回）
 2. 自宅の浴室（ 回）
 3. 自宅のシャワーだけ（ 回）

5. 食事についておたずねします。あなたはふだんの食事をどの様にしていきますか。朝食、昼食、夕食別に、次のうちから当てはまる場所1つに○をつけてください。

	サ ブ ・ ま で せ た 食 ン は ベ タ る	食 自 重 宅 の ま で 食 事 を る	自 配 分 偶 ま 者 た が は 作 る	そ の 他
朝 食				
昼 食				
夕 食				

6. あなたは、国内で、趣味の会やグループ活動に参加していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 参加している 具体的に（ ）（ ）
 2. 参加していない

7. あなたの世帯（家族）は普段、国内の下記の共同施設をどのくらい利用していますか。それぞれについて、当てはまる場所1つに○をつけてください。

	ほ ぼ 毎 日	週 4 1 5 回	週 2 1 3 回	週 1 回	月 2 1 3 回	月 1 回 以 下	殆 ど 使 わ な い	全 く 使 わ な い
1 喫茶室								
2 和室								
3 体育室								
4 集會室								
5 応接室								
6 談話室・サロン								
7 フロント								
8 図書室								
9 洗濯室								
10 理・美容室								
11 ゲスト・ルーム								
12 散歩路・公園								

【サービス】

8. あなたの世帯（家族）で、次にあげる家事などについて、ヘルパーやその他の職員に手助けしてもらった回数を、それぞれ当てはまるところ1つに○をつけてください。さらに、一度でもやってもらったことのある場合は、誰にもらったのかについても、それぞれ、当てはまるところ全てに○をつけてください。

	回数					誰にもらったか						
	ほぼ毎日	週3回	週1回	月2回	月1回以下	ヘルパー	看護婦	園の他の職員	家政婦 個人雇い	子供	子供以外の親戚	その他
1 事務的な手続きなど												
2 修理・大工仕事など												
3 通院の付添い												
4 病気の時の看護												
5 留守中の管理												
6 居室の掃除												
7 洗濯												
8 住居への食事の運搬												
9 買物												
10 入浴介助												
11 歩行介助												
12 その他（ ）												

【外出・余暇】

9. 外出についておたずねします。

①あなたはどのような目的で、 から外出しますか。次のうちから当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 買物に行く
2. 銀行・役所・郵便局へ行く
3. 子供・親戚に会いに行く
4. 友人に会いに行く
5. 病院へ行く
6. サークル・おけいこごと・観劇などに出かける
7. 仕事に行く
8. その他（ ）

②あなたは普段どのくらい外出しますか。次のうちから当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

1. ほとんど毎日
2. 週3～4回くらい
3. 週1～2回くらい
4. 月1～2回くらい
5. 月1回以下

10. 余暇についておたずねします。あなたは、どのように余暇（仕事・家事・食事・睡眠など以外の時間）を過ごしていますか。次のうちから、当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. テレビ・ラジオ
2. 散歩
3. 家族との団らん
4. 茶飲み友達とおしゃべり
5. 一人でやる趣味・学習（内容）
6. 仲間とやる趣味・学習（内容）
7. スポーツ
8. 社会奉仕（内容）
9. 休養・昼寝
10. その他（ ）

【健康状態】

1.1. 健康状態についておたずねします。

①あなたは、現在自分の健康状態をどのように考えていますか。次のうちから当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. たいへん良い
- 2. 良い
- 3. ふつう
- 4. やや悪い
- 5. 悪い
- 6. わからない

②あなたは現在、慢性的な病気をお持ちですか。次のうちから当てはまるもの全てに○をつけてください。

- 1. 慢性的な病気はない
- 2. 脳卒中
- 3. パーキンソン
- 4. リュウマチ
- 5. 虚弱
- 6. 痴呆
- 7. 難聴
- 8. 整形的疾患
- 9. 神経痛
- 10. 高血圧症
- 11. ぜん息
- 12. 脳動脈硬化症
- 13. 内臓的疾患
- 14. 緑内障
- 15. 白内障
- 16. 弱視
- 17. その他 () () () ()

③あなたは、どのくらいの範囲を行動することができますか。次のうちから当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. ベッド上に限る
- 2. 自室内のみ自力で移動できる
- 3. 園の建物内ならば自力で行動できる
- 4. 一人で交通機関を利用して外出できる

④あなたは入居後、園内の敷地・建物内でケガをしたことがありますか。当てはまる番号1つに○をつけてください。

- 1. ある
- 2. ない

それは、どこで・どのようなケガをしたのですか。

場所 () () ()

ケガの内容 () () ()

1.2. 通院についておたずねします。

①あなたは現在、通院していますか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

- 1. はい
- 2. いいえ

次の②③④は、現在通院中の方におたずねします。

②通院先は次のうちどこですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。園外に通院されている方は1) 2) についてもお答え下さい。

- 1. 園内診療所
- 2. 園外の病院

() (ヶ所)

- 1) その病院はどこにありますか。
 - a. 宝塚市内
 - b. 兵庫県内
 - c. 大阪府内
 - d. その他 _____ 都道府県

- 2) 園外の病院を利用する理由は何ですか。
 - a. 以前からのかかりつけの医者だから
 - b. 診療科目が園内がないから
 - c. 設備が整っているから
 - d. 総合的で大きい病院だから
 - e. 園外の病院の方が質が高いと思うから
 - f. 園で紹介されたから
 - g. その他 ()

③診療科目は何ですか。次のうちから当てはまるもの全てに○をつけて下さい。

- 1. 眼科
- 2. 内科
- 3. 歯科
- 4. 整形外科
- 5. 耳鼻科
- 6. 皮膚科
- 7. 外科
- 8. 針灸
- 9. 産婦人科
- 10. その他 ()

④通院回数はどのくらいですか。当てはまるもの1つに○をつけて下さい。

- 1. ほとんど毎日
- 2. 週2~3回
- 3. 週1回
- 4. 月2~3回
- 5. 月1回
- 6. 月1回

【入居理由】

13. 入居についておたずねします。

① 〇〇〇〇 園への入居はいつでしたか。

昭和・平成 _____ 年 _____ 月

② 現在は、〇〇〇〇 園に入居していますが、もし寝たきりや痴呆になった場合、他へ移る計画などを考えていますか。次のうちから当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 居室で、世話をしてもらいたい
2. 園内の診療所や静養室のベッドで世話をしてもらいたい
3. 園外の病院へ入院するつもりだ
4. 他の介護専用の有料老人ホームに移るつもりだ
5. 特別養護老人ホーム（栄光園など）に移るつもりだ
6. 家族（子供など）の所に帰るつもりだ
7. 先のことは考えていない
8. わからない
9. その他（ _____ ）

平成以降に入居した人は②にお答え下さい。

③ 老後の生活像についておたずねします。子供との同居・別居について、あなた自身のご意見に近いもの全てに○をつけてください。

1. 子供はいないのであまり考えたことはない
2. 今も、できれば子供と同居したい
3. 子供はいるが、仕事の都合で遠くに住んでいるから、同居は考えられない。
4. 娘ばかりで、同居は考えられない
5. 老後は、子や孫にかこまれて暮らすのがよい
6. 子供家族に世話をかけたくない
7. 子供家族と同居すれば、何かとわずらわしいので、別居がよい
8. 配偶者が亡くなれば、子供と同居したい
9. いずれ病弱になれば、子供家族に面倒を見てもらいたい
10. 子供はいても、できるかぎり自立し、別居して生活していきたい
11. お互いのプライバシーを守る住宅であれば、同居してもよい
12. 別居でも、近くて、行き来しやすいところがよい
13. 子供と同居するには家が狭い
14. その他（ _____ ）

【基本属性】

14. 生活費についておたずねします。

① あなたの世帯（同居者のいらっしゃる場合はお二人で）は、いま、1ヶ月にどのくらいの生活費（園へおさめる管理費・食費を含む）が必要ですか。当てはまるもの1つに○をつけてください。

1. 10万円未満
2. 10万円以上15万円未満
3. 15万円以上20万円未満
4. 20万円以上30万円未満
5. 30万円以上40万円未満
6. 40万円以上

② ①の生活費は、次のうちどこからのものですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

1. 年金・恩給・扶助料
2. 月収（仕事）
3. 預貯金
4. 不動産による収入（家賃・地代など）
5. 子供などからの仕送り
6. その他（ _____ ）

15. 以前お住みになっていた家についておたずねします。

① 〇〇〇〇 園に入居する直前にお住みになっていた家は、次のうち、どのような型でしたか。

1. 一戸建て持ち家
2. 一戸建て借家
3. 集合住宅（マンションなど）持ち家
4. 民間の集合住宅（マンションなど）借家
5. 社宅・官舎など
6. 公営住宅
7. その他（ _____ ）

② 〇〇〇〇 園入居前はどちらに住んでいましたか。

_____ 都・道・府・県 _____ 市・区・町・村

おわりに

本研究は、筆者が大学院生（1979年度修士課程二年生）の時に、同じ研究室に所属していた四年生と共に取り組んだ調査研究を出発点としている。調査対象となった有料老人ホームの存在は、四年生の三沢由紀子さん（当時）がキリスト教徒であったことから情報を得ることができたように思う。その情報をたよりに、指導教官である湯川利和教授（当時、奈良女子大学家政学部住居学科）の強力なバックアップによって、本研究を継続することができた。たまたま対象としたホームが15年間、ほとんど改築や増築を行ってないということも、入居者を対象とした継続調査を可能とするために重要な条件の一つであったであろう。

本研究を進めてきた15年以上に及ぶ期間の中で、研究上の大きな転機は二つあった。第一は、1次調査の後に参加した「建築若手の会」の夏合宿の際、地域施設関係をテーマにしているグループ（このグループは、当時、高橋博久先生（名古屋工業大学）、萩田秋雄先生（現・筑波技術短期大学）らが中心であった）における討論である。筆者の「有料老人ホームで調査をやった」という自己紹介に対して、「金持ちのために研究するの……」という参加者のつぶやきがいつまでも心に残った。その時、「金持ちのためだけに留まらない」有料老人ホームの研究を目指さねばならないと心に誓った。第二の転機は、3次調査結果を1、2次調査結果と単純に並べて「入居者の加齢と生活の変化」としてまとめた日本建築学会関東支部大会の発表を行った時のことである。外山 義先生（現・東北大学工学部）より、調査回答者の入退居の動向が踏まえられていない「変化」は研究とはいえないという内容のご批判をいただいた。正直なところ、本研究はその後本格的に進んだといえる。

そして、この度平成七、八年度の2年間にわたって文部省科学研究費の交付を受けることによって、まだ不十分な点を残しながらもこのような一冊の報告書にまとめ上げることができた。今後、さらに考察を深め、高齢者世帯向け住宅一般の計画・運営のあり方へ提案できる形までまとめていきたい。

最後になりましたが、調査に当たっては対象有料老人ホームの入居者の方々はもちろんのこと、職員の方々にも大変なご協力をいただきましたこと、心より感謝する次第です。また、1次から4次までの調査に参加し、その時々々の調査結果を取りまとめてくれた多くの方々には、以下に記すことによって、感謝の意を表します。

- 1次調査：三沢由紀子さん（1979年度奈良女子大学四年生）
 竹村真由美さん（1979年度奈良女子大学四年生）
- 2次調査：戸井恵子さん（1983年度奈良女子大学四年生）
- 3次調査：内田直美さん（1990年度静岡大学四年生）
 杉村真里子さん（1990年度静岡大学四年生）
- 4次調査：青島延江さん（1994年度静岡大学研究生）

最後に、1～4次の調査結果を公表した研究発表について示します。

論文

1. 「有料老人ホームでの住み方」相島裕子、三沢由紀子、竹村真由美、湯川利和
第28回住宅問題研究発表会梗概集 pp. 81-90 1980. 3
2. 「有料老人ホームにおける住戸内生活の検討」相島裕子
奈良女子大学家政学会「家政学研究」Vol. 28 No. 1 pp. 51-57 1981. 9
3. 「有料老人ホームにおける住み方(2)」小川裕子 日本建築学会中国支部研究報告集 第9巻1号
pp. 287-290 1983. 3
4. 「老人世帯の生活様式に関する研究—有料老人ホームE園居住者の意識と生活実態について—」小川裕子、
湯川利和 日本建築学会近畿支部研究報告集 pp. 353-356 1984. 6
5. 「有料老人ホームにおける住戸内生活の検討—E園における追跡調査—」小川裕子
奈良女子大学家政学会「家政学研究」Vol. 31 No. 2 pp. 115-122 1985. 3
6. 「有料老人ホームにおける住戸内生活の検討—I、II、III列型住戸の住み方—」小川裕子
奈良女子大学家政学会「家政学研究」Vol. 32 No. 1 pp. 85-91 1985. 10
7. 「民間有料老人ホームにおける入居者の加齢の進行と生活の変化 その2 専用住戸における生活行為の場」
小川裕子 日本建築学会関東支部研究報告集 pp. 201-204 1993. 3
8. 「—民間有料老人ホームにおける開設後15年間の入居者概要と入退居動向—」小川裕子 日本建築学会
計画系論文報告集 第492号 pp. 101-108 1997. 2

報告書

1. 「民間有料老人ホームにおける入居者の住生活と住要求に関する研究」小川裕子
山口大学教育学部 1986. 1

口頭発表

1. 「老人の住生活に関する研究 第2報 (1)高齢者の同居観 (2)高齢者世話ホームE園の住まい方
(3)高齢者世話ホームE園の共同施設利用実態」相島裕子、湯川利和
日本家政学会関西支部第52回研究発表会 1979. 12
2. 「有料老人ホームでの住み方」相島裕子、湯川利和 日本建築学会大会 1980. 10
3. 「有料老人ホームにおける住戸内生活の検討—Mホームの場合—」小川裕子
日本建築学会大会 1983. 9
4. 「高齢期の住まいに関する研究—有料老人ホームYにおける入居者調査の結果から—」小川裕子
日本家政学会 第44回大会 1992. 5
5. 「民間有料老人ホームにおける入居者の加齢の進行と生活の変化 その1 健康状態と通院」小川裕子
日本建築学会大会 1992. 9
6. 「加齢に伴う住み方の特徴—有料老人ホームにおける入居者調査を通して—」小川裕子
日本家政学会第45回大会 1993. 5